

令和3年度第2回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 (WEB会議) 会議録

議題	(1) 令和2年度実施市民活動推進補助事業実施報告
日時	令和3年5月29日(土) 9時30分から15時30分
場所	市役所本庁舎4階会議室4・5
出席者氏名	染谷倫人 高橋準治 (WEB会議により出席) 柴田春菜 菅原澄江 中野有子 秦野拓也 北川哲也 中川久美子 山田修嗣 事務局4名(市民自治推進課) 三浦課長、小西課長補佐、遠藤副主査、柿澤主任
欠席者	石田貴一 米山友哉 矢島啓志
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者数	9名

○事務局

皆さま、おはようございます。本日は、お忙しい中、お越しいただきまして、ありがとうございます。

ただいまより、令和2年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会、スタート支援の部を開催いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の小西と申します。どうぞよろしく願いいたします。

では、最初に、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員をご紹介します。委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

皆さま、おはようございます。今日はよろしく願いいたします。山田と申します。

市民活動推進委員会を代表いたしまして、皆さまにご挨拶申し上げたいと思います。

市民活動げんき基金補助事業ですけれども、市の理念としましては、市民活動を推進するその環境を整備して市民活動の活性化を図る。これによって活力あふれる地域社会の実現を目指すということが目的とされた事業だそうです。これに基づきまして、私たち市民活動推進委員会は、さまざまな協力ですとか、助言ですとか、それから、皆さまの活動に対して、うまく進みますようにということでアドバイスですとか、場合によっては質問などをさせていただくというのが今までのパターンでした。

今日は、その報告会ということですので、皆さまから頂戴いたしました報告書ですとか、資料を読ませていただきまして、そして今日の発表、皆さまにご報告いただく内容を伺うということで、大変楽しみにしております。これまで、総数としては約160に及ぶ事業に対しまして、支援が行われているようですけれども、その中には、活動がみごとに成果、それから実を結びまして、活動団体そのものの発展ですとか、それから、地域社会の目的である、地域社会に活力が注入される。そうした皆さまの活動によって、茅ヶ崎市が大変すばらしい発展ですとか、生活の豊かさなどが実現されているということも事実であると思います。

こうした1年間の市民活動げんき基金補助事業の活動ですけれども、今日は、午前中、スタート支援の5団体の皆さまにご報告をいただきたいと思います。さまざまな成果があったと思いますので、そのあたりをぜひ十分にご紹介いただければと思いますが、時間の関係でどうしても省略しなければいけないところなどあるかもしれませんので、エッセンスをぜひご紹介いただければと思っております。私たち委員は、その報告を伺って、質問、応援のメッセージなどを皆さまにお伝えしてまいりたいと思います。限られた時間ではありますけれども、よろしく願いいたします。

それでは、委員の紹介をさせていただきます。画面では順番が違うと思いますので、こちらであらかじめ設定された名簿順にお名前を紹介してまいります。

まず、副委員長の中川委員です。

それから、柴田委員です。

菅原委員。

染谷委員。

中野委員。

秦野委員。

高橋委員。

北川委員。

委員は、9名が今日出席ということです。どうぞよろしくお願ひいたします。

以上、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

本日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、原則、オンラインでの開催とさせていただきます。この方法での開催にご協力いただきました各団体の皆さま、委員の皆さま、この場にて改めてお礼申し上げます。

会場にいらっしゃる皆さまにおかれましては、マスク着用やアルコールによる手指の消毒、感染症対策にご協力いただきますようお願いいたします。

また、オンラインでの報告会となりますので、機器接続の不具合などの可能性も想定されます。どうかご容赦いただければと思います。

報告団体様との通信が途切れるなど報告が困難となった場合には、報告順を入れかえるなどの対応をさせていただく場合もあります。報告団体の皆さまにおかれましては、適宜、順番が繰り上げになる可能性もありますので、その際はどうかご協力をお願いいたします。

また、本日、オブザーバーとして市民活動サポートセンタースタッフの方々にもご参加いただいております。皆さま、ご承知おきいただければと思います。

それでは、本日の報告会の流れについて、簡単にご説明申し上げます。

お配りしておりますピンク色の表紙の冊子をご覧くださいませでしょうか。本日、これから11時50分ごろまでのお時間で、令和2年度に実施した市民活動げんき基金補助事業のスタート支援事業5事業について報告をいただく予定です。

発表の時間配分についてご説明いたします。

最初に、報告団体より10分以内で事業についての説明をしていただきます。

時間管理について申し上げますと、まず、終了1分前に一度ベルを鳴らします。

また、予定時間の10分を経過したところで2度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員からの質問やアドバイスなどを行います。こちらは6分以内を予定しております。

団体様の説明中に2度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。

本日の報告会の様子は、写真やスクリーンショット等で撮影して、市のホームページ、広報紙等に活用させていただく場合がございますので、ご承知おきいただければと思います。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金となっております。冊子の5ページから6ページにかけて、ご寄附いただいた方々を掲載しております他、冊子の背表紙をご覧ください。茅ヶ崎市体育館に設置された湘南ヤクルト販売様の自動販売機、小和田公民館に設置されたダイードリンク様の自動販売機の売上の一部を基金にご寄附をいただいております。

ここでお知らせとなりますが、これまで市民活動げんき基金につきましては、市民の皆さまのご寄附と、その同額を茅ヶ崎市も積み立てる、マッチングギフトという方式で積み立てを行ってまいりました。しかしながら、令和2年3月に発出した茅ヶ崎市財政健全化緊急対策及び新型コロナウイルス感染症の影響にかんがみ発出した令和3年度事業実施方針を踏まえまして、令和3年10月1日以降に受領する寄附に対応する、マッチングギフトの積み立てにつきましては、当面の間、休止することとなりました。

マッチングギフト分、市の積み立ては当面休止となるのですが、皆さまからの寄附自体は受け付けを引き続き行って、また、げんき基金の原資がまだありますので、げんき基金を活用した補助については引き続き実施をしてまいりますので、よろしく願いいたします。

本日、オンラインでの開催となっているのですが、会場にはげんき基金の募金箱も用意しておりますので、ご協力をいただければと思います。

それでは、これから各事業の報告に入らせていただきたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

では、一番最初がわんにゃんマルシェ実行委員会様になります。準備をお願いできますでしょうか。

よろしく願いいたします。

○わんにゃんマルシェ実行委員会

発表させていただきます。よろしくお願いいたします。

おはようございます。「捨てられる動物たちの命を救うイベント『わんにゃんマルシェ』」の令和2年度の活動報告をさせていただきます。

わんにゃんマルシェ実行委員会、川上です。よろしくお願いいたします。

本日の内容は、わんにゃんマルシェとは、第8回わんにゃんマルシェ活動報告、その

反省と課題を発表させていただきます。

わんにゃんマルシェとは、既にペットを飼っている飼い主さんや、これからペットを飼いたいと考えている皆さまの動物愛護の心構えなどの普及啓発活動を目的に、定期的で開催されるチャリティイベントです。捨てられる動物たちを1匹でも多く救えるようにと活動しております。

昨年度の活動といたしまして、イベント、第8回わんにゃんマルシェの様子をご報告させていただきます。

コロナの流行の中、イベント開催に向けて、実行委員会一同、ミーティングを重ねてまいりました。市民自治推進課とも協議をたくさんさせていただきました。今までとはすっかり違う状況に、イベントをやってもいいのか、どこまで集客すればいいのか、そもそも人が集まるのかなどなど、刻一刻と変わっていく世の中の状況を見ながら、計画を立てなければなりませんでした。

そして、私たち実行委員の中で出した結論は、いつものイベントはもう無理だろう。でも、保護猫、保護犬の譲渡会だけでもやろうというものでした。例年よりも大幅に規模を抑えて、保護団体さんの譲渡会を中心に、そして本当に動物愛護への興味関心がある方だけに来ていただけるように、初めて入場料をいただいで開催としました。

コロナの感染予防対策として、会場を区切って受付を設け、そこで、検温、消毒、名簿のご記入にご協力をいただきました。そして、入場料をお支払いいただき、リストバンドをつけてご入場いただきました。会場内でも密を避けるために、1回に会場内に入れる人数を約30名とし、入場制限をかけさせていただきました。

画像は、受付付近の様子です。

私どもも予想以上のご来場者さんの数と、入場制限をさせていただいたために、会場に入るために30分以上お待ちいただくこともあり、受付に並ぶ人の列が公園内に長く延びてしまうなど、ご迷惑もおかけしましたが、お待ちいただく間も、皆さまおしゃべりも控えめに、静かにお待ちいただき、混乱もなく、ご協力をいただきました。

会場内でも大きな混乱もなく、入場いただいてからも、皆さま粛々と団体さんとのお話をされたり、あとは、ペットを連れてのご来場者さんも大変多かったのですが、皆さまきちんとルールを守って会場内でのイベントを楽しんでいただきました。

公園内では、いつも素敵な音楽を演奏してくださる「わんにゃんミュージック」の皆さまと、あとは、公園内飲食禁止、テイクアウトのみの厳しい条件にもかかわらずご出店いただいたキッチンカーの皆さまにもイベントを盛り上げていただきました。最終的なご来場者数は700名近くにもなり、本当に予想以上の皆さまに来ていただき、無事にイベントを終了することができました。

今回の譲渡会では、トライアルを含め、猫12匹、犬4匹の譲渡が決まり、また、入場料と会場内募金箱への寄附金と合わせ14万7,890円が集まり、参加7団体さんの寄附とさせていただきます。また、げんき基金補助事業で作成させていただいた動物愛

護のためのパンフレットも多くの方に手渡すことができました。ペットを飼うことの心構えに、皆さまに興味関心を持っていただけたと思います。画像は、そのパンフレットになります。

今回のイベントの反省点として、コロナ禍の中で茅ヶ崎市としても多分初めての大きなイベントだったのではと思います。勝手にわからず試行錯誤しつつ、戸惑うことも大変多かったです。にもかかわらず、思いの他ご来場者さんが多く、入場制限があり、お待ちいただく時間が長くなってしまい、会場内よりも待っている行列が密になってしまいました。また、会場を仕切った開催だったのですが、入り口以外から入ろうとする人が多く、会場整備にもっともっと人出が必要だなと感じました。

次回への課題として、今年も周りの状況を見ながら、フレキシブルに対応できるように、準備だけはしっかりしていきたいと思います。

イベント当日に関しては、まず、スタッフの人員を増やして、会場内での混乱を軽減させたいと思います。また、コロナ対策も引き続きしっかりできるように計画していきます。

今年度1年間を通して、イベント開催をこの先も継続できるように、そしてまた、動物愛護の啓発活動を継続できるように、仕組みづくりをしっかりとやっていきたいと思っています。

私たちわんにゃんマルシェは、捨てられる不幸な動物がゼロになることを目指し、今後も活動を続けていきます。コロナの中、企業様からの協賛もなかなか得られない状況の中で、こうしてイベントを開催できたのは、今回、げんき基金補助事業の補助金があったからと、本当に感謝しております。ありがとうございました。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員から質問、コメントなどがありましたら、どうぞご発言ください。お願いいたします。指名はしますけれども、順番等に関係ありませんので、どのようなご質問、コメントからでも結構です。高橋委員、お願いします。

○高橋委員

プレゼンどうもありがとうございました。実は私、当日、少し見にいってしまして、すごく盛況だったなと思いました。コロナの状況の中で、スタッフの方がすごく動き回っているのを目の当たりにして、本当によくやっていたなというところでございます。

当日、人が想定以上に来られたということですが、通常、コロナ禍ではないときの開催では何人くらい来られていたのかなというのは思いました。そのためのスタッフはどれくらい必要になるのでしょうかというところ。あと、本当に意義深い活動だと思いますので、ぜひ今後も継続をしっかりとやって、さらなる充実を図っていただければというメッセージを含めて質問してみました。

○わんにゃんマルシェ実行委員会

ありがとうございます。

今までの開催、コロナの前の開催で言うと、前々回の開催で4,000～5,000人くらいという入場者数でしたね。スタッフは全部で、ボランティアさんも含めて20人くらいですかね。前回は動物愛護協会さんとの動物フェスティバルという県のイベントと一緒に開催で、寒川の中央公園でやらせていただいたのですけれども、そのときは8,000人くらい来たそうです。正確な数ではないのですけれども、そのときはさすがにわんにゃんマルシェだけでは全然回し切れなくて、動物フェスティバルのほうの寒川役場の方だったりとか、あと、獣医師会の方たちだったりとか、皆さまのご協力があったって開催できたという感じですね。

今回、コロナで、告知も何も全然、いつもポスターを張ってもらったりとか、チラシをまいたりということをするのですけれども、それも全然やらずに、フェイスブックとかで「やりますよ」みたいな感じで告知しただけだったので、私たちの予想では300人くらい来ればいいかなと思っていたのですけれども、倍以上の方にご来場いただいたという形で、会場内、少し混乱もありましたし、スタッフ内でドタバタしたところもあったのですけれども、大きな事故もなく、感染が爆発するという事もなく、無事に終わったので、本当によかったと思っています。ありがとうございます。

○高橋委員

ありがとうございました。

○山田委員長

続いて、中野委員、どうぞお願いします。

○中野委員

プレゼンありがとうございます。お疲れさまでした。すごくあったかい雰囲気伝わってきました。

今回、入場料100円をいただくということを、多分、団体の皆さまの中でも検討されたと思うのですけれども、これに関して、今までは無料でやっていたのを、何か葛藤みたいなものはあったのでしょうか。あと、今後もこういったやり方を続けていかれる予定

はおありなのかということをお聞きしたいと思います。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

今までは、運営の資金として企業さんからの協賛だったりとか、あと、個人協賛だったりとか、寄附金みたいな形で協賛いただいて、それで回しているみたいなのところがあって、今回、コロナもあり、そんなに集客が見込めないという予定であって、そもそも人を集客してもいいのか。そんなに人を1カ所に集めていいのかというのがあるって、それだったら、入場料を課して、それを払ってでも来たいという人は、動物の譲渡会だったり、動物愛護に本当に興味を持ってくださっている方が来るのではないかとということで、入場料を設けさせてもらったのですね。なので、集客を、ご来場者さんを抑えるという意味合いもあっての入場料と、予想以上の人出はあって、入場料もたくさんいただけたので、結果としてそれを寄附金に回すことができたというのもありますね。

今後としては、今回、入場料100円、小学生以上ということにいただいて、それで特に文句が出るとか、クレームがあるとかということもなく、皆さまとでもご協力的にやってくさったので、今年も100円いただくという形でやっていきたいと思っています。

○中野委員

ありがとうございます。参加するみんなが応援しているという気持ちを形で示すという意味では、よかったのかなと思いました。

○山田委員長

ありがとうございます。

秦野委員、お願いします。

○秦野委員

プレゼンありがとうございます。試行錯誤の中、ご苦労されたのではないかと思います。お疲れさまでした。

1点、私から効果についての部分の質問ですけれども、参加された参加者の声といますか、わんにゃんマルシェの目的が参加者の方に届いていたのかどうか。こういった開催した意義というか、実感をしたようなお声などがもしいただけていましたら、お知らせいただければと思います。お願いします。

○わんにゃんマルシェ実行委員会

イベントに関しては、通常どおりのイベントではないという。普段だったら、さっきも言いましたように、何千人という単位でたくさんの方に集まっていただいて、たくさんの方に動物愛護ということを知ってもらうという意味合いでのイベントなのですね。なの

で、そういう意味合いでは、数的にはいつもよりも全然少なかったとは思いますが。ただ、保護団体さんもずっとコロナで譲渡会ができない状態が続いていて、人を集められないとか、会場がないとかというのがあって、譲渡会だけでもやろうというのは、そういう意味合いでもあったのです。保護団体さんもどんどん持ち込まれる犬とか猫とかの数は減らないのに、譲渡会ができずに全然里親さんを探せないみたいな状態が続いていたので、その点に関してはとても意義があったのではないかと自負しております。

あとは、もう少し動物愛護の啓発活動、今回、パンフレットを配布するという形でやらせていただいたのですが、このような世の中なので、今年度はもう少し広く、ネットだったりとか、そういうところで発信して、いろいろな人に見ていただけるような工夫を考えていきたいなとは思っております。

○山田委員長

ありがとうございます。

では、事務局から、質問時間は以上ですということですので、質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。わんにゃんマルシェ実行委員会の皆さま、ありがとうございました。

それでは、続きまして、知的発達障がい児・障がい者のためのサーフィン体験会について、認定特定非営利活動法人Ocean's Love様に報告をしていただきます。ご準備のほうをお願いいたします。

それでは、ご報告をお願いいたします。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

よろしく申し上げます。NPO法人Ocean's Loveの伊藤と申します。

改めてになりますが、我々は「海から陸へのノーマライゼーションの社会づくり」というミッションを掲げまして、障がいのある子どもたちに海での体験を通じて笑顔になって、そして成長してほしいという思いと、海での活動を通じて地域住民の方々に障がいへの理解を深めてほしいという思いを持って活動しています。

我々もコロナの影響は多大に受け、そして、どうすべきかとよくよく考えていく中で、少し形態を変更して開催いたしました。もともとは、サーフィンの体験会を夏に1回開催し、知的障がい、発達障がいの児童、そして成人の方々に体験いただくという会を予定しておりましたが、茅ヶ崎市として、まず8月末までのイベント自粛というお願いもありまして、これ以外の事業はオンライン等でやったり、イベントをしていたのですが、まず、コロナがおさまったころに子どもたちがリアルで体験できる場をつくらうと思ひまして、

10月にサーフィンと。そして、11月、少し寒くなって子どもたちが海に入るのが厳しくなってきましたので、ビーチでのトレーニングということに変更して行いました。

人数も、もともと予定していたよりは安全を最優先して減らしまして、もともと児童と成人、両方ご参加いただく予定で、成人のほうは入所施設の方々を想定していたのですが、入所施設の方々はなかなかコロナ禍で外部の方との接点をつくるのは難しいということで、児童のみの参加ということになりました。

サーフィン体験会のほうは10月に開催しましたが、コロナ対策として、チェックシートやマスクを着用いただくということはもちろんしましたし、ガイドラインをつくりまして、それを張り出したり、あと、アルコール消毒も使うことにしました。一番懸念していたのは、海の中での飛沫対策というのが難しいなと思っていたのですが、ライフセイバーさんが着用するようなマウスガードがあるという情報を聞きまして、それを購入して、海の中でも飛沫対策を行いました。

実際の活動内容ですが、最初に、子どもたちにもコロナ禍の中でこういうことはしてはいけませんよというような感染症対策を説明しまして、陸上でトレーニングをし、そしてサーフィンを体験していただく。陸上でもマウスガード、このころはまだシールドのマスクではなくてクリアマスクを使って、陸上でも飛沫対策をしていました。

最後、サーフィンの体験をした後に、子どもたちはすごくいい笑顔になってくれて、子どもたちからの感想をいただいて終了するというようなイベントになりました。

そして、こちらが、11月に開催したビーチトレーニングです。ビーチでやるとはいえ、できる限りサーフィン、そして海を体感してもらえようような経験を積んでいければと思います。試行錯誤した中で、このような形で、通常は子どもたちがウォータースライダーのようにして使う道具ですが、ここにボールを敷きつめてサーフボードを立てて、少しサーフィン体験できるような形を試してみたりして。

左上が、砂山をつくって、そこから滑り降りるようなサンドサーフィンだったりとか、我々のボランティアさんの中にリトミックダンスの先生がいらっしゃったので、オリジナルサーフィンドダンス、をつくっていただいて、それをやってみたり。あと、どうしても夏祭りとか地域のお祭りも中止になったという声も聴いていたので、少しでも夏を体験してもらおうかなというところで、夏祭りのアトラクションなんかも入れて開催しました。

こちらは、参加いただいた保護者からの感想ですが、我々がもともとやってきた、海でチャレンジするというところを経験していただいて子どもの成長を感じられたということや、自粛生活で子どもたちがなかなか外に出ることがなくて、笑顔を見られなかったという中で、いい笑顔を見られたりとか、ボランティアさんとの接点を感じたというお声をいただいて、開催するかどうか悩んでいたときに、自分たちだけで考えてもしょうがないなと思ひまして、保護者の方々にアンケートをとったんですね。コロナ禍の影響でお子さんはどうお過ごしですかと。やはり自粛生活で外に出ることがなかなかできないので、子どもたちの精神的な影響も出ているというお声も聞きまして、何よりも外部との接点が

減って、とにかく人と会うようなイベントを欲していたという声も伺っていたので、サーフィンをすること自体もちろんそうですが、我々であったり、ボランティアさんと一緒に過ごす中で、気を晴らすということができたのではないかと思います、子どもたちの社会的、精神的、そして身体的な健康を保つことができたと考えております。

もう一点、我々、ノーマライゼーションを進めるという中では、地域住民の方々の理解を広げるということも大事なところですので、ボランティアさんからもメッセージをいただきまして、子どもたちの成長と一緒に感じるということができたということももちろんなのですが、ボランティアさん側からも、家族以外の大人とのコミュニケーションをとることが子どもたちにとってすごく大事だということを感じていただきましたし、コロナ禍において活動を止めずに、子どもたちと一緒に活動するということが大切であるというものも感じていただいて、子どもたちの未来のために何をすべきかというところの視点で考えていただいた一年になったのかなと感じております。

ですので、小さいながらも我々のノーマライゼーションを目指すというところは一歩前進したと感じています。

ここは補足ですが、安倍昭恵さんが会長を務める社会貢献支援財団から長年の我々の活動を認めていただいて表彰していただいたり、あとは茅ヶ崎のメディアの方々に取り上げていただきました。

最後になりますが、我々、サポート事業個人の皆さまに活動報告書をつくっております、こちらのほうにげんき基金のお名前を入れさせていただいております。

今後ですが、もちろんサーフィン事業も含めたスポーツ教室というのは、子どもたちにとってすごく有用なものと考えていますので、今年は、去年と同レベルか、もしくはもう少し増やした形でできればやりたいなと思っておりますが、もちろん継続して行って、今まで行っている子どもたちに対する就労支援事業や、オンラインセミナーなどは続けていきます。

そして、新たに、やはり我々は子どもたちが安定的にスポーツを体験できる場所をつくりたいなと思っておりますので、茅ヶ崎の中で子どもたちが通えるような通所施設を今後つくっていきたいと思っております。

以上になります。

最後に、去年、コロナ禍の中で我々も財政的にはかなり厳しくなったところでして、補助金をいただけたことで活動を継続できたというのは本当にありがたいことであります。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、コメントがありましたらご発言ください。お願いします。
柴田委員、どうぞ。

○柴田委員

発表ありがとうございました。

1点お聞きしたいのですけれども、聞き間違えていたら済みません。冒頭のところで、オンラインで何か交流していたみたいなお話があったと思うのですけれども、具体的にはどのようなことをされていたか、教えていただきたいです。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

2つございまして、1つは、子どもたち向けのトレーニングイベントをやりました。ビーチのイベントでもやったような、サーフィンダンスであったりとか、サーフィンの要素を取り入れた体幹トレーニングみたいなのを我々がオンラインを通して指導するというものと、もう一つは、オンラインでの交流会のようなイベントで、これは、子どもたちだけではなく、全国のボランティアさんも含めて参加いただいて、一緒にゲームをしたりとか、あとは、それも先ほどのサーフィンダンスと一緒にやったり、どちらかというところと交流を深めるようなイベントもやっております。

○柴田委員

交流会というのは大体何人くらいオンライン上で集まれたのですか。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

30～40人くらいでした。

○柴田委員

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。菅原委員、お願いします。

○菅原委員

発表ありがとうございました。発表の最後のほうで、市民活動のOcean's Loveがやっていることとして、スポーツ教室、就労支援事業、セミナー、講演会などというのがあったのですけれども、市民活動として就労支援事業というのはどのようなことをやられているのか教えてください。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

我々、企業にサポートいただいている部分がありまして、そのサポート企業様と一緒に、企業の実際の業務を体験するというお仕事体験会みたいなものを行っております。例えばですが、レストランの中で一日我々のためだけにレストランを開店していただいて、そこに子どもたちが接客であったりとか、食事をつくる経験、そんなことをやらせていただくような体験会でございます。

○菅原委員

子どもたちですか。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

そうです。中学1年生から二十歳まで。

○菅原委員

今まで何人くらいの方が参加されたか、大体でいいので、教えてください。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

今まで、延べで100名くらいです。

○菅原委員

ありがとうございます。

○山田委員長

続いて、では、染谷委員、お願いします。

○染谷委員

発表ありがとうございました。

最後に、茅ヶ崎市内で通所施設をつくってほしいというご希望があるとのことですが、これは具体性があるのかどうかということと、今後、ステップアップ支援のほうに進むつもりはあるのかどうかをお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

放課後デイサービスを考えておりまして、今年度もしくは来年度中には開設したいと具体的には考えております。

ステップアップ支援のほうは、申請時期に間に合わなかったもので、来年度は受けない

のですが、チャンスがあれば受けたいと思っております。

○染谷委員

ありがとうございます。

○山田委員長きます。

続いていかがでしょうか。北川委員、お願いします。

○北川委員

発表ありがとうございました。事業自体を実施するのが難しい社会情勢ではありますが、そんな中で工夫をされて、子どもたちのために開催されたこと、本当に素晴らしいなと思いました。

最後、ご説明をいただいたときに、活動原資が少し厳しくなっているという部分についてですけれども、そのあたり、何か今後の手というか、そのあたりの対策というのを考えていますでしょうか。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

我々の資金の大半が、企業や個人からのサポートでいただいていたもので、企業自身も厳しくなってきた中で、我々も一緒に厳しくなっていくと。自己資金をつくっていくというところが大切だとは思っているのですが、今まであまり活動の中で受益者負担をいただいていたので、そこも少し増やしていくということと、先ほどの今後開設したいと思っている施設などは自己資金になるかなと思っていて、その辺で考えているところではあります。

○北川委員

ありがとうございます。今、茅ヶ崎もシティプロモーションを積極的に実施している動きもありますので、そのようなところと連動されたりとか、さまざまな調達手段というのが、こういった活動には用意されていますので、ぜひそのような、行政にも相談をしながら、引き続き広がってほしいなと思いました。ありがとうございます。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。コメント、質問はいかがですか。まだ時間は大丈夫そうで

すね。いかがでしょう。

それでは、私から1つ伺いたいと思います。いろいろとご説明いただいて、参加者の皆さまの評価ですとか、アンケートをとられて、参加予定者、対象者の思いなどを取り入れるという工夫をなさっていたことは大変すばらしいなと感じました。例えば、そういう声を聞いたときに、伊藤さんをはじめ、Ocean's Loveの皆さまは、団体内どのようにその声をさらに自分たちの次の動機づけや活力につなげるようにしていらっしゃいますか。会の中での捉え方とか、受けとめ方など、そのあたり、少しご紹介いただけますでしょうか。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

我々、常にスタッフでやっているものの、その中でも賛否というか、やるべきか、やらないべきか、悩んだというところはあったのですが、親御さんたちからの現状を伺ったことによって、これはやはり活動をとめてはいけない。何かやれることを考えて前進すべきだと至ったので、これは、生の声を伺ったというのはすごくよかったなと感じています。

○山田委員長

その際に、うれしい声だと思しますので、メンバーの皆さまのやる気に大きくつながったというところはありましたでしょうか。

○特定非営利活動法人Ocean's Love（伊藤）

もちろんそうです。前年までいただいていた親御さんからの感想などを見返して、やるべきという理由を我々自身も見つけないといけないところもあったので、いただけたことはモチベーションになるかと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

Ocean's Loveの皆さま、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「アルコール問題に関する啓発事業」について、茅ヶ崎断酒新生会様から報告していただきます。ご準備のほうよろしく願いいたします。

○茅ヶ崎断酒新生会

こんにちは。今日は、唯一ライブで参加している茅ヶ崎断酒新生会の宮坂と言います。

よろしく申し上げます。

活動の報告の前に、経緯というか、説明させていただきたいと思います。

私たちは、アルコール問題で悩んでいる本人及び家族が、お酒をやめたいと思って、活動している集団です。今回応募したのには流れがありまして、我々の活動というのは、限られた閉塞された状態での活動で、一般的にはマイナーに近い活動が多いのですけれども、精神医療関係の医療機関、茅ヶ崎市の保健所、この辺が主にかかわっていきまして、紹介なり、相談なりという形を受けてきているのでけれども、このままの状態というのには限られた狭い範囲での活動しかできないということで、今回、いろいろ模索しながら、19年に茅ヶ崎市の市民まつりにブースを出して、広く一般の方に呼びかけるといふか、相談に乗るといふ活動をしました。その活動が比較的評判がよかったので、もっと展開を大きくしたいなというときに、ある市議会議員、今は県議会議員の方から紹介を受けて、タウン誌に我々の活動を掲載してもらったりとか、そういう事業をやっているときに、げんき基金補助事業のアドバイスをその方から受けて、げんき基金補助事業でもっと広く活動したら？というようなところから今回に至っています。

今回、目的といふか、大きなターゲットは、19年に続いて、市民まつりにブースを出したいといふところから、お金がかかるよね、お金ないよね、では、げんき基金補助事業で活動しようといふところだったのですが、スタート時点から大きく計画が変わってしまって、苦労したといふのをまず報告させていただきたいと思います。

では、実際どういう活動をしたかといふと、少し情けないのですけれども、大きな活動といふのはできておりません。具体的に何をしたかといふと、メインは、市民まつりに出たかったのですけれども出られなかったといふところで、断酒会とはどういう活動をしているかといふチラシをつくって、チラシで啓発事業をしようといふことで、メインを、チラシをつくることと、あと、それを我々の活動を知ってもらうためのアピールという形で、「断酒会」というネーミングの入ったジャンパーをつくるというところで活動をしました。

ピンクの資料の中にも白黒の写真が入っていますが、このようなロゴ入りのジャンパーを着て活動をしていますといふことです。

では、具体的に何をしたかといふと、チラシをどういうふうな形で活用したかといふ話になるのですけれども、チラシは、市のほうにお願いして、各公的機関に、公民館ですとか、コミュニティセンターですとか、そういうところに配架、置いてもらうといふことでお願いしているのと、茅ヶ崎市には、内科を含めて個人のクリニックに内科の治療に来たときに、アルコール問題で相談を受けているというケースが想定されるので、待合室に置いてもらうという活動で、84カ所の個人クリニックにお願いしました。これは、ダイレクトメールという形かな、郵送で送って、置いてもらうという返信があったときに置いてもらう、配達するといふか、配るといふような方法でやったのですけれども、予想していたのが、4割くらいの反応があるかなと思っていたのですけれども、実際、置いてあげ

てもいいよという機関は8機関ほどしかなくて、残念でした。関心が薄かったのかな。我々がアピールが悪かったのかな。まだその辺はつかめていませんが、そういう結果になりました。

あと、消防署管轄ですと、救急の扱いがあるので、消防署にもお願いしました。それと、アルコール問題で交番でも結構お世話になるというケースがあると思うので、警察にもお願いしましたが、個人及び団体の対応をしてしまうと、平等にという考え方だと、全ての皆さまからのそういうお願いを聞き入れなければいけないということで、断られました。

結局、チラシを相当量つくったのですけれども、予想外に配れませんでした。読みが甘かったせいもあるかもしれませんが、そういう形で、あまり好ましくないとは思いましたが、ポストイングでチラシを配布したという活動をしていますし、今後も継続していきたいなと考えています。

今回の活動で成果、いわゆるストレートな反応がどのくらいあったかというのは、これはすぐ反応するような活動ではないので、様子見という段階なのですけれども、今後も活動を続けていきたいと思えます。

今後の活動として、次のステップアップ支援を受けるかどうかというのは、私、今回で会長を退任しますので、次の役員がどういう形でやるかというのはまだわかりませんが、少なくとも活動は続けていく意義があるのかなと思えます。コマーシャルになってしまうかもしれませんが、「広報ちがさき」の6月1日号に我々の活動の案内を載せていただいていますので、ぜひともご覧になっていただければありがたいと思えます。

取りとめなくなってしまうすみませんが、活動報告を終わります。以上です。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

承知しました。では、委員からの質問、コメントがありましたら、お願いいたします。中川委員、どうぞ。

○中川副委員長

発表ありがとうございます。今回、発表していただくのも生とといいますか、オンラインというのが不得手な高齢者の方もたくさんいて、私もその一人で、ZOOMでやるのがすごく不安でしようがないという状況にありますけれども、その中でも発言していただいております。ありがとうございます。

私、お聞きしていて、この手の活動というのは、広げるのは大変難しいと思えます。

問題の深刻さと、ご家族の苦勞とかご本人の苦勞というものを広く伝えていくというのは難しいので、無理せずに地道な努力を続けていただきたいと思います。

1つアドバイスですけれども、チラシをつくられましたよね。医療機関のうちの8機関のみが置いてくれたということですのでけれども、せっかく補助金を獲得して活動をされているわけですから、そのことも少しチラシの中に書いておいていただければ、これは公的にも一つ認められた活動だなということが皆さまに伝わったかもしれないので、もう少し広がりといいますか、協力していただけるクリニックも増えたかもしれません。そういう意味で、広報にも入れてもらっているということでしたけれども、あきらめずに、地道にこれからも活動を続けていただきたいと思いますと思っております。ありがとうございました。

○茅ヶ崎断酒新生会

ありがとうございます。

チラシは、実際、これですけれども、補助事業名のほうのチラシは、このコピーで。下のほうに入れてあります。

○中川副委員長

わかりました。すみません。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いて、菅原委員、ご質問があるようですので、お願いいたします。

○菅原委員

発表ありがとうございました。

発表を見ると、年に4回、月例会を行っていると思ったのですがけれども、毎月行うという計画はありますか。

○茅ヶ崎断酒新生会

これは毎月行っています。毎月第1、第3の土曜日は寒川で、第4の土曜日が鶴嶺コミセンで、第4の木曜日は保健所と、月例会は、月4回、毎月行っています。

○菅原委員

毎月4回行っているんですね。それはとてもいいことだと。毎月行っている月例会がとても大事な活動だなと思います。アルコール依存症の方は、世間の無理解に苦しんで孤独だと言われているので、月例会で皆さま孤独をいやして、少しずつ回復していくという力になると思います。頑張ってください。以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。

今の質問にはリプライはよろしいですか。返答はよろしいですか。

では、あとお一人大丈夫そうですけれども、いかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

○高橋委員

発表ありがとうございました。

やはり認知度、すごく難しいと思うんですね。自分、びっくりしたのが、クリニックとか医院に郵送して4割。4割の想定は少し高いかなというところで。今、手紙を送っても、案内とかだと見ない場合も多いので、こういうのは、茅ヶ崎市の例えば医師会の事務局に話をしたりとかということはあるのでしょうか。そこを通して話が医師会の会長なり上層部に行けば、協力してね、みたいなアナウンスがきっとあるのではないかなと思いますので、上から突つくというのもいいのかなと。そうするとさらに協力が得られたのではないかなと思いますので、どうなるかわかりませんが、そんな方法もあるのかなと思って言ってみました。

○茅ヶ崎断酒新生会

貴重なご意見ありがとうございます。そこのアイデアというか、考え方がなくて、もう一度再検討させていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。

○山田委員長

では、時間ですので、質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

断酒新生会さん、ありがとうございました。

それでは、ここで休憩の時間をとりたいと思います。再開は10時45分とさせていただきます。皆さま、それまでにお戻りいただくようお願いいたします。

(休憩)

○事務局

それでは、よろしいでしょうか。再開させていただきます。

続きまして、「みみとこころのポータルサイトについて」、一般社団法人4Hear

t sさんから報告していただきます。ご準備をお願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

○一般社団法人4H e a r t s

よろしくお願い致します。一般社団法人4H e a r t sの那須かおりと申します。

生まれつき耳が全く聞こえておりませんので、皆さまのお話は、サブモニターで音声認識を表示させつつ、少し音が割れている場合は音声認識できませんので、そのときは手話通訳をお願いしております。

げんき基金補助事業の申請時点では、まだ市民団体だったのですけれども、去年の5月25日に法人化しました。代表の那須と津金が共同設立者として4H e a r t sを始めました。もともとは、那須がカウンセラーになりたい、津金がカフェバーをやりたい。聞こえない人がフラッと飲みに来れるような居場所をつくりたいということで、その夢がドッキングをしたらいいのではないかとということで4H e a r t sが始まりました。

その中でいろいろと少しずつブラッシュアップをしていきまして、例えば、自分がカウンセラーになりたかった原点というのが、自分自身の体験に基づくものなのですが、全てに困っている。例えば、聞こえる人の世界に入り込んだときに、自分の障がいの説明ができなかったりとか、周りに同じような聞こえない人がいないので、ロールモデルがいなかったとか、あとは、周りから音が聞こえていないということは、雑談とかから蓄積されるはずの社会通念、こういうことは言っちゃいけないんだとか、このような言い方をするのはよくなくて、もう少しオブラートに包んだほうがいいんだとか、そういうのが蓄積されにくいということがあります。

あとは、何ができて、何ができないのか、自分の感情と自分の言葉、実際に言語の定着があまり強くないという意味では、感情と言葉がマッチングしないということで、さまざまなハードルがあります。そういうのがもう少しこんなふうになったらいいねということで、情報発信するためのサイトが必要だということで、げんき基金補助事業の活用は、「みみとこころのポータルサイト」、そういう情報発信をするためのサイトをつくることで申請させていただきました。

心に焦点を当てられているということが一番、他の既存のサイトと比べて大きく違うところだと思います。去年の7月にプレオープンさせていただいたのですけれども、こちらは、NPO法人のセカンドワーク協会さんにサイトの作成を手伝っていただきまして、デザインのほうを株式会社ボンドさんにお手伝いいただきました。

2カ月くらいプレオープンさせていただいて、9月に正式公開をさせていただいたのですけれども、少し前後しますが、7月から2月までの通算でユーザー数が8,700人くらい、訪問者数1万3,000人くらいだったのですけれども、記事数は思ったよりたくさん更新することができなかったなという反省点はあるのですけれども、4月のプレオープンから3月までで54記事くらい。平均で1カ月6記事くらいになります。

内容としては、70年以上ろうあ運動にかかわってくださった高齢の93歳くらいのおばあちゃんなのですけれども、その先生が私の神戸のときの恩師でして、その人にいろいろインタビューさせてもらったのです。かなり深掘りした内容で、その方は手話通訳さんなのですが、実際にダイレクトにろうあ運動にかかわっていた方なので、いろいろな実態もよくわかっていらっしゃった方なので、そういうことを深掘りして記事にしたのですね。そうすると、なかなか言えないようなことをその方だから言えるということがたくさんあったので、すごく参考になりましたとか、有意義なことを書いていて助かりました、みたいなことはおっしゃっていただきました。

茅ヶ崎市周辺に住んでいらっしゃるろうあSUP選手の方とか、フットサルの日本女子代表の選手とか、監督さん、トレーナーさんにインタビューしたり、あとは、風疹で耳が聞こえなくなるということが多いので、そういったことの注意喚起とか、いろいろな記事に書かせていただきました。

4 Heartsは、「みみとこころのポータルサイト」だけではなくて、「みみここカフェ」というのもやりましたし、あと、ごちゃまぜのフットサルもやりました。「みみここカフェ」は偶数月に開催しております、第1回を10月に、2回を12月、1～2月にやっています。第3回と第4回は、緊急事態宣言がありましたので、オンラインで開催をしています。1回目と2回目は、コワーキングスペースのチガラボさんで開催しました。

オンラインとリアル開催の両方、それぞれメリットがありまして、オフラインのほうがダイレクトに人となりが見えるし、あたたかみも伝わるということで、すごくいいのですけれども、オンラインだと、みんなの口元が画面内で全部見えるということで、逆にそのほうがわかりやすいという方もいらっしゃる。どっちがいいのかということも難しいところで、リアルで開催してくださいとか、オンラインのほうがいいですという、いろいろな声がありますので、これからはどういうふうに、どのようなあんばいで開催していくかは考えていきたいなと思っています。

ポータルサイトの中で、今回の助成金の申請の中に交通費が入っていたのですけれども、これは、大阪府早期手話言語獲得支援事業「こめっこ」というところの取材をさせていただきました。これがなんで取材が大事なのかというと、先ほど申し上げましたけれども、言語の定着が薄いということは、言語の空白が起きてしまっている。皆さま、耳が聞こえている方というのは、お父さん、お母さんの声が勝手に音として入ってきているのですけれども、聞こえないということは、言語というのが勝手に入ってこないような状況です。視覚でないとわからないということで、言語の空白をとにかく視覚言語で、要するに手話ですね。手話で空白を起ささないように見せていかなければいけないよねということで、早期獲得支援事業というのが始まっているんですね。これは、神奈川県でも去年から「しゅわまる」というのが始まりまして、それを推進していくということも含めて、県のほうで議員が立ち上がっていますし、いろいろそういうのが追い風になっているよう

な状況にあるのですが、「こめっこ」が一番のモデルケースになっているところです。そこを取材させていただきまして、スーパーバイザーをされている河崎佳子先生のお話をいろいろ聞かせていただきました。先生は、言語の定着というのは、親子間の本当にお互いがわかったというあったかい心の交流、安心感においてこそ定着されるのだというのが一番の主張というか、そういうことをされているので、もっと丁寧にそこは誤解を生まないように取材したという感じです。

その記事も書きまして、公開させていただきました。これは大阪府もかかわっておりますので、大阪府のほうにもチェックしていただきまして、公開させていただきました。

記事執筆の今後の課題として、言語定着も含めて、字幕起こし、文字起こしが大変だったということがあったので、げんき基金補助事業を生かして、もう少しやっていきたいなと思っています。

動画もクロマキー合成用の機材がないので、字幕とかもつけられなくて、手話通訳さんもつけられなくて、少し大変だったという感じです。

フライヤーも400枚くらい刷らせてもらったのですが、映画の上映もありまして、それで追加で400枚刷らせていただきました。

いろいろなところと連携させていただきながら進めております。

スローコミュニケーションプロジェクトというのを始めておりまして、こういうものをやっております。手話特区構想に名称を変更して、これをやっています。神奈川大学とも共同研究をしながらやっています。

飛び飛びですけれども、いろいろと事業展開をしていく中では、ポータルサイトが一番のキーになっていまして、そこでいろいろと発信していきながらやっていけたらなと思っています。

以上です。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。

それでは、委員からの質問、コメントがありましたらお尋ねいたします。いかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

○高橋委員

発表ありがとうございました。

質問ではないのですけれども、ポータルサイトの制作は、実は私のところの編集室も

茅ヶ崎市と共同でサイトを立ち上げるということを半年かけてやったのですね。4月にオープンしてきたのですけれども、つくって一安心という感じではなくて、生きたサイトにしていくために、しっかりと、停滞しないように記事の更新はまめにやって、より多くの人に見てもらおうということがすごく大事なのかなと。

いろいろな工夫ができるかと思うのですけれども、1カ月に6本の記事が出ているというのは、まずまずではないかなという感じがしました。ですから、そこは下回らないように、しっかりと継続をして、要するに、活動を知ってもらう一つのきっかけになると思うので、これをフックにさらに活動の輪を広げていただけたらと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

他に質問、コメントはいかがでしょうか。中川委員。

○中川副委員長

今的那須さんの発表と言葉を聞いていて、改めて、障がいを持っている当事者の言葉の訴える深さというのを感じまして、特に「言語の空白」という言葉ですけれども、「言語の空白」というのは、多分、耳が不自由な方だけでなく、いろいろな障がいを持った方たちに共通しているのかなと思います。それをポータルサイトで発信していく際にも、何か他の障がいの方にも通じるような気がすごくしますので、例えば、目の障がいですとか、あるいは、身体の障がいもあるかもしれませんし、そういう方への広げ方も少しずつ考えていっていただきながら、すごく貴重な体験を言葉にされているので、そういう方面にも少し力を入れながら、来年度、ステップアップを申請され、それもおやりになることになっていますので、ぜひともそういうところまで広げていただきたいなと思いつつ、応援と感想ですけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○一般社団法人4Hearts

「みみここカフェ」のほうにもさまざまな障がいの方、本当は、どっちかというところ耳が聞こえないお子さんを持ったお母さまとか、そういった方に参加していただけるのかなと思つたら、ふたを開けてみたら、さまざまな障がいの方とか、少し興味を持った方とか、いろんな人が来てくださって、その中に視覚障がいの方もいらつしゃって、話をしてみてもわかつたのが、障がいを持っているということを引け目に感じてしまう自分がある。それは、聞こえないとか関係なしに、いろんな障がいを持っている方が根源的に思っているという部分で、社会に出ていくためのハードルになってしまっているというのが学びでした。それはすごく大事なことだと思ひし、「言語の空白」の点で言うのも、例えば、親御さんが犯罪を犯してしまつて乳児院とかに預けられてしまうようなお子さんは、親のアタッチメントが少ないので、言葉の定着が薄いというところが正直あるみたいなのですね。そこ

も含めて、聞こえない人だけではなくて、聞こえている人でも、少し感情と言葉が合わないという方もいらっしゃるみたいですね。そのような方が多分潜在的に多くて、そういった人たちにも届くような発信はしていきたいなと思っています。

○中川副委員長

ありがとうございます。

○山田委員長

柴田委員の手が挙がっていました。お願いいたします。

○柴田委員

発表ありがとうございました。

いつも発表を聞いていて、すごい活動をされているなというのを感じております。最初の意見にもあったとおり、生きたサイトにしていただきたいというのを感じているのですけれども、個人的には、活動されている量がすごく多いので、無理のない範囲でやっていただくというのが継続につながると思うんですね。個人的に、1カ月に6本の記事を上げているというのは、すごいハイペースなのではないかなという印象を私は持ちました。本当に無理ない程度で続けられるというのが生きたサイトにもつながると思うので、今のペースが無理でなければ、このまま続けていただくのがいいと思うのですけれども、ご自身のペースでやっていただけたらなというのを感じています。

私の友人にも片方だけ耳が聞こえない方がいて、「見えない障がい」と友人はよく言っていて、片方だけは聞こえるから、もう片方聞こえないというのをわざわざ言う必要もないし、公言することでもないけれども、自分は少しハードルがあるんだよねというのを常に言っていたので、そういう方のためにもなっていくと思うので、これからも頑張って活動を続けていただけたらなと思います。応援しています。

○一般社団法人4Hearts

ありがとうございます。たしかに片耳の片は障がい者手帳をとれないので、そういったことも含めて、さまざまな社会的なハードルというものもあるかなと思いますので、そういったことも盛り込みながらやっていきたくないと思っています。よろしく申し上げます。

○柴田委員

応援しています。

○山田委員長

ありがとうございました。

それでは、時間になりましたので、質疑応答は以上といたします。ありがとうございました。

○事務局

4 H e a r t s の皆さま、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「～市民活動団体に I T 伴走する～『W e b 制作とシニアリーダー育成事業』」について、N P O 法人セカンドワーク協会様から報告していただきます。ご準備のほうをお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

○N P O 法人セカンドワーク協会

セカンドワーク協会の四條と申します。よろしくをお願いいたします。

「W e b 制作のシニアリーダー育成事業」について、実施報告をさせていただきます。簡単に我々の N P O 法人のご紹介をさせていただきますが、50代のシニア、あるいはミドルのメンバーが、現役のウェブクリエイターさんの支援を受けつつコラボレーションして、良質なウェブサイトを小規模事業者の方に提供していくこと。

ウェブサイトを提供するに当たっては、伴走というのを非常に大事にしていること。シニアにとってみると、会社員時代の第1の仕事の次の2つ目の仕事としてのセカンドワーク。現役のクリエイターさんにとってみれば、副業のセカンドワークという意味でのセカンドワーク協会という名前をつけています。

実績は、那須さんの一般社団法人4 H e a r t s さんのサイト、あるいは、マザーアース茅ヶ崎さんの茅ヶ崎防災関係のサイト、あと、最近やりましたのが、藤沢の家庭的保育室チューリップ保育室さんのサイト等を実際にやっています。

本題に入ります。

げんき基金補助事業につきまして、このパンフレットをつくりまして、大体1,000部つくって配布をしております。実際に9月16～23日、事前説明会を2回やった後にオリエンテーションをしまして、10月4日からセミナーを隔週で6回開催しております。幸い、この時期は、コロナが少しおさまっていた谷間の時期でしたので、チガラボさんでリアルでセミナーを実施しております。当然ながら、三密回避とチェックシート管理等を実施し、コロナ対策を徹底しながらやってきました。

5組8名のご参加をいただきまして、結果的に4つのウェブの公開を完了し、1つのウェブの素材構想案が作成できましたということと、受講生8名のうち7名が我々 N P O に参加していただいているということで、これもとてもよかったかなと思っています。

具体的には、4つのサイトですが、実際にご覧にいれようと思います。

まず、我々の N P O 法人セカンドワーク協会のウェブサイトはこの成果が載っておりまして、お手元のピンクの小冊子の実施報告会の Q R コードがありまして、その Q R コー

ドをスキャンしていただくと、実際のウェブサイトの実績のページに飛ぶことができます。

これは4つありまして、松林サポートセンター様。これは、松林地区でボランティアさんをまとめて、住民の皆さまに紹介する公的な利用もされています。こちらは、なかなかボランティアの方が高齢化して、かつ、人数も若干減っているということもありまして、実際の活動をアピールするサイトをつくりたいということで、現在、センター長の湯地様みずからがウェブサイトをつくらうと思立って、作成させていただきました。実際の活動報告等、お知らせ等をされています。

2つ目が「親子の居場所を応援ラボ」ということで、不登校さんのお子さんとその保護者の方、親の支援を受けるということで、これは、藤沢で活動されている団体さんですけども、いろいろなイベントをやっているとして、ワークショップとか、オンラインでマレーシアの子ども留学みたいなことをされていたり、かなり活発な活動をされておりまして、これのアピールをしたいということで、ウェブサイトをつくられています。

それから、これは、防災本宿さんということで、本宿自治会の防災リーダーの方がつくられたサイトで、これは本当に力が入った、すさまじく頑張られているページで、グーグルマップに防災マニュアル、防災マップ、防災マップでグーグルマップで、本宿地区のグーグルマップに全て消火栓とか防災経路とか、全部アップしたみたいなことで、この辺は防災活動に役立っていると思います。

4つ目が小和田熊野神社。これをアピールして、実際に活動をやられているメンバーの方がかなり高齢化しているということもあって、若い方にその活動を知ってもらいたいというようなことですね。そういうことを意識してつくられたと聞いています。

その結果、アンケートをとりまして、アンケートの結果、6名にアンケートに応じていただきましたが、良好でした。ホームページがすばらしくて満足していますとか、丁寧な対応でよかったというようなことで、セミナーのテーマとかセミナーのコンテンツについては非常によかったのですが、一方、セミナーの時間配分とか進行については、やや満足ということで、ここでやや満足というのは、ある意味課題があったのだらうなということとして、これは、カリキュラムとかテキストとか、あと、我々が初めて、6回、隔週で、かつ4時間ずつやって、かつ、ZOOM、オンラインでのシェアなんかもさせていただいたのですが、この辺は課題があったのかなというのが出ています。

2つ目は、先ほどのチラシでもおわかりのように、「シニアリーダー」という打ち出し方をしたので、ミドルの、特に女性の方が市民活動団体のキーになられていることが多い。その方が私も応募していいのかしらと感ずるということがあったと聞いています。そういうことで、令和3年度のげんき基金補助事業もステップアップの採択をいただいておりますが、この辺の課題をクリアするべく、運営のほうをもう少し考えたいなと思っています。

短いですが、以上です。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、コメントがありましたらお願いいたします。では、染谷委員、お願いします。

○染谷委員

どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

反省点の中に、セミナーの時間配分とか若干問題があったとおっしゃっていましたが、当初の予定では、コロナでなければ外部講師を入れてという計画だったと思うのですけれども、外部の方が入れれば時間の配分とかはうまくいったというふうにお思いでしょうか。自分たちでやったことがすごく大切だったなと私は思っているのですけれども、いかがですか。

○NPO法人セカンドワーク協会

時間配分については、我々、外部講師にお願いの仕方も含めて、もし外部の方に入っていたとしても、やはり課題を解決できていなかったのだろうなと思います。全体の6回の隔週のセミナーの設計に課題があったかなということで、それを今回生かしたいなと思います。

○染谷委員

ありがとうございます。

○山田委員長

続いてご質問、コメント、いかがでしょうか。中野委員、どうぞお願いします。

○中野委員

ありがとうございます。

質問というより、コメント、感想ですけれども、今回、支援された中に、松林サポートセンターさんですとか、本宿の防災活動をされている方のホームページ、ウェブページサイトというのがあったと思うのですけれども、主に市民活動団体の支援ということをして四條さんはおっしゃっていたのですけれども、意外と地域の自治会組織のようなところのウェブサイトを充実させることによって、新たに若い方とのつながりができたり、さまざまな可能性がまだまだ秘められているのではないかと感じましたので、ぜひそういったとこ

るにも力を注いでいただけるといいのではないかなと思いました。

○NPO法人セカンドワーク協会

ありがとうございます。

実は、4つのサイト、1つの企画の、この1つの企画も、まちぢから協議会の連絡会がホームページをつくっておられまして、その担当をやられている方が、うちの会員にもなっていたのですけれども、いいウェブサイトを広めたいと強く思われている方で、今年は、げんき基金補助事業の令和3年度の中には入れていないのですけれども、NPOの活動として、自治会さんとどうかかわっていくかというのは一つの大きなテーマとして活動していこうと思っています。

○中野委員

ぜひよろしくをお願いします。

○山田委員長

続いて、柴田委員、どうぞ。

○柴田委員

発表ありがとうございました。

先ほどの中野委員のご質問というか、意見に対しての付随ですけれども、私も地域の者のホームページとかがあるというのは、若者とか子どもの目にも届くので、私の世代とかだと、地域の情報は、検索をしたりはするのですけれども、なかなか挙がっていないので、そういう意味では、すごい役に立つというか、コロナ禍になって、なかなか他の場所に行けないとなると、この近くで、名所だったりとか、何かないのかなと探したときに、こういうサイトがあるとすごい助かるというか、自分のためにもなりますし、お子さんだったら、地域を知るという意味では、学習という面でも使えるものになると思うので、そういったところのホームページだったり、サイトというのを充実してもらえると、ある意味地域内で地域を知ることにもつながると思うので、今回発表を聞いていて、若者世代のためにもなると思いました。

○NPO法人セカンドワーク協会

ありがとうございます。地域を知る、大事なキーワードだと思います。ありがとうございます。

○山田委員長

続いて、質問いかがでしょうか。よろしいですか。

先ほど、すいません、自分が少し言いかけたので、1点だけ伺いたいところですが、今回、参加をしてくださった方のアンケート、質問をして感想をとられたということですが、その中でも、例えば、次の展開に向けて必要なカリキュラムの話もされていまして、その点では、ITスキルやITリテラシーと同時に、情報発信の倫理ですとか、メディア利用の訴え方の倫理観のようなものは、実際にセカンドワーク協会の皆さまとしては感じるところがありましたでしょうか。つまり、伝えるという技術を身につけた次には、おそらく、どのように伝えるかというような話がありまして、そういったところでの、いい意味での展開とか、逆に、混乱ですとか、そういったようなところはお感じになったところはありましたでしょうか。

すいません。質問が変な質問ですが、例えば、自分たちの主張を伝えるために、少しインパクトの強い情報発信の仕方をして、それで、その思いをメッセージとして伝えるという場合に対する最低限の配慮ですとか、逆に、その思いがうまく伝わらないような情報の提供の仕方など、そういった工夫も実際に運営している側としては、いろいろとあると、混乱や困難もあると思いますので、そういったような必要性というのはお感じになりましたでしょうかという意味でした。

○NPO法人セカンドワーク協会

我々、まだ、それほど力がなくて、ウェブをつくることである意味精いっぱいなところが正直ありまして、かつ、本編、中身については、クライアント様、オーナー様側にある程度任せているところがあるので、今のご質問に対して、NPO法人としての議論とか方向性とかというのは、あまり実は正直まだできていないところですね。

ただ、非常にその辺に関連すると思うのは、いま、NPO法人のメンバーは40名くらいいるのですが、実際に活動しているメンバーというのは十数人くらいですね。その中でも市民活動団体さんから出られている方と、さっきの不登校のサイトは、実際に個人事業主でビジネスをされている方で、実際に自分のビジネスサイトも持たれている方で、アピールの仕方が、集客というのが一つキーワードになるのですが、ビジネス系のウェブサイトというのは、実際にビジネスにつなげなければいけないということで、かなり実際のお客様を想定して、実際の訪問者をペルソナと言うのですが、想定しながらウェブをつくっていく。そこに響くようなアピールの仕方をする。市民活動団体さんのほうは、あまりそういうのを好まないみたいなことがありまして、その辺の議論になったことは今まであります。

ですから、おそらくサイトの目的がポイントだと思うのですね。何を目的にするか。それによってコンテンツについてのアピールの仕方をNPO法人としてアドバイスせねばならない。さらに、その上で、では、倫理観とは何なのだろうということをこれから検討しようと思います。今のところはそんなところでございます。

○山田委員長

答えにくい質問にうまく答えてくださってありがとうございます。

では、時間は以上ですので、質疑応答をこれにて終了とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

セカンドワーク協会様、ありがとうございました。

以上で予定しておりました5事業の発表が終了しました。ありがとうございました。

それでは、これより総括質疑に移ります。

総括質疑とは、市民活動のさらなる発展や、市民活動げんき基金補助事業の向上などを目的に、委員の皆さま及び団体、傍聴の方々から、日ごろの活動の中で感じられていることについて、忌憚のないご意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。時間の目安としては11時40分までを予定しております。

総括質疑の進行は、山田委員長にお願いします。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

承知いたしました。

それでは、今から総括質疑ですけれども、総括質疑といっても、まず初めに皆さまの団体間の意見交換ですとか、メッセージ交換などの時間がいつも大切だと伺っておりますので、今回の5つのグループの報告を聞いて、それぞれ団体の皆さまから他の団体に対しての質問ですとか応援メッセージなどがありましたら、まずはそちらから発言いただきたいと思います。どうぞ団体の皆さま自由に発信、発言していただければと思います。よろしく願いいたします。手を挙げてお知らせいただければ助かります。いかがでしょうか。

では、伊藤さん、お願いいたします。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

皆さま、発表を聞かせていただいてありがとうございました。

4Hearts的那須さんの発表の中で、聴覚障がいの方が言外の言葉が察しにくいというお話を伺って、我々が対象としている発達障がいのお子さんも、聴覚、耳からの情報が入りづらくて、視覚の支援が必要だったりするので、そこは近いところもあったりするなど、共感しながら聞いていましたし、我々は今、発達障がい、知的障がいのノーマライゼーションの考え方を市民の方々に伝えていくようなセミナーもやろうと思っています。ぜひ那須さんにはそういうところにもご登壇いただければうれしいなと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

○一般社団法人4H e a r t s

ありがとうございます。

私自身も聴覚障がいの方だけではなくて、おっしゃるとおり、視覚優位の方は、私たちの活動にすごく共感してくださる方がいらっしゃって、コミュニケーションプロジェクトというのも、例えば、指差しメニューですね。今年、茅ヶ崎駅前のスターバックスさんに私のほうからお願いして、指差しメニューを置いていただいたのですが、フェイスブックにそのことを書いたら、発達障がいの方もすごく助かるというコメント、あとは、自閉症の方もそれはすごく助かるという声もいただいたので、聴覚障がいだけではないのだなと思ったので、それをもっともっと全国的に広めていきたいなと思っています。なので、ぜひ一緒にできたらと思います。よろしくお願いします。

○特定非営利活動法人O c e a n ' s L o v e

これからも情報交換させてください。

そして、茅ヶ崎市の事務局の方にもお願いがありまして、この横のつながり、すごくいいものだなと思っているので、コミュニティ化していただければ、余力があれば、ぜひぜひ。我々だけではなくて、これまで助成を受けた方々も素晴らしい方がいっぱいいらっしゃると思いますので、何かそこら辺をご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

○山田委員長

ということで、事務局にご指名がありました。リプライはいかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。発表を聞かせていただいている、いろいろな人がいろいろな人たちとかかわるということが非常に重要になるということを事務局も気づかされました。今後に向けて検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

せっかくなので、例えば、O c e a n ' s L o v e の皆さまからする横のつながりというのは、こういう媒体であるとか、こういうつながりであるとかといったような、ヒントというか例があれば検討しやすいかと思うのですが、いかがですか。オンライン交流会みたいなものが何かあるといいなとか、そのようなことでもいいのですが、いかがでしょうか。

○特定非営利活動法人O c e a n ' s L o v e

例えば、フェイスブックグループみたいなものをつくっていただいて、その中に皆さ

まが入って、グループの中で自分たちの活動を上げていって、目にする機会をつくっていただくとか、気軽に触れ合えるコミュニティがあると。あと、活動情報をアップできるようなものがあるといいなと思っております。

実は、今日、この後、タウンニュース茅ヶ崎さんの取材を受ける予定になっていて、また高橋委員とはそこでお会いするかなと思っているのですが。なので、皆さま、茅ヶ崎の実は近いところにながら、活動がわかっていない部分もあるのかなと思っています。発言させていただきました。

○山田委員長

ありがとうございます。

中野委員、どうぞお願いします。

○中野委員

伊藤さんのご提案に対して、サポートセンターとしてお話しさせていただきたいのですけれども。サポートセンターも一応市民活動団体さんの中のフェイスブックグループをつくってありまして、PR不足で、多くの方にまだご参加いただけていないのですけれども、みんなで茅ヶ崎を盛り上げていこうということで、フェイスブックをやっている方々にお声がけして参加していただいて、いろいろな情報提供とか、情報交換などをさせていただいておりますので、ぜひそういったことを活用していただけるといいなと思いましたので、サポートセンターの担当者に伝えます。

○特定非営利活動法人Ocean's Love

いつもお世話になっておりながら、勉強不足で大変申しわけないです。

○中野委員

こちらもPRをもっとしなければいけないなと思いました。

○山田委員長

ありがとうございます。

では、続いて、関連事項でも他のことでも結構です。いかがでしょうか。もちろん、委員からの発言も大歓迎ですので、よろしく願いいたします。

先に柴田委員、手が挙がりましたので、どうぞお願いします。

○柴田委員

今回の発表とはずれてしまうかもしれないのですけれども、今回、コロナ禍の中で活動されてきたと思うのです。イベントを実施していたところもあったと思うので、この状

況がどれくらい続くかわからないのですけれども、コロナ禍で大体これくらいのイベントができました、みたいなマニュアルみたいなのをつくっておくのもいいのではないのかなというのを思いました。というのは、今後、他の団体さんが何かイベントをやりたいと思ったときの参考になると思うので、そういうのを各団体さんで掲載しておくというのも重要ですし、どこかにそれをストックしておくというのもいいのかなと個人的には思っていました。

○山田委員長

今のメッセージの宛て先はどこですか。事務局、自分たち委員会、幾つか考えられるのですけれども、いかがですか。

○柴田委員

そうですね。自分もそれを思っていて、どこにまとめておくのが団体さんの目に届きやすいのかなというのがあって、事務局なのか、我々委員会なのかというのは、まだ頭の中で考え切れていないのですけれども、どうなのでしょうね。もし事務局でできれば、事務局でやっていただいてもいいですし、委員会でそういうのがあったほうが見やすいというのであれば、委員会でつくるのもいいのかなというふうには考えています。とにかく目の届きやすい場所に置いておくというのが私のイメージです。

○山田委員長

ありがとうございます。すみません、宛て先がメインではなかったのですね。目に届くというところが。

○柴田委員

そうです。

○山田委員長

承知しました。今の提案に対して、どなたか、このようなこのような方法、いいのではないかとか、アイデアがあったらお知らせいただけますか。那須さん、どうぞお願いします。

○一般社団法人4Hearts

さっき、Ocean's Loveの伊藤さんもおっしゃっていたのですけれども、横のつながりという意味では、サポートセンターのほうからもおっしゃっていただけけれども、そういうコミュニティを今一生懸命つくろうとされているということなので、私のほうでも、オンラインサロンというか、情報交換をするようなコミュニティを持ちたいなど

思っていたところでして、NPO法人湘南スタイルさんから横のつながりが欲しいということで相談を受けておりました、一緒に大きなオンラインサロンをつくっていかないか、みたいな話をいただいております、6月の頭に打ち合わせをするのですけれども、もしかしたら、それをもう少しつなげていって、サポートセンターさんを巻き込んで、みんなで作ったら、ひょっとしたら、そこに投稿していくことで、マニュアルをみんなで横のつながりの中、共有できるのかなと少し思いました。

○山田委員長

ありがとうございます。

今的那須さんのご発言の途中に、チャットでサポセンからフェイスブックのさっきの情報、アドレスが送信されていますので、あわせてこちらをご覧くださいと思います。

それから、先ほど同時に高橋委員からも発言の挙手が見えたので、お願いいたします。

○高橋委員

先ほどフェイスブックのグループをつくって情報共有というのがありましたけれども、実は、Ocean's Loveさん、これから、うちのメンバーが取材させていただくのですけれども、茅ヶ崎市とタウンニュースで共同して、「#ちがすき」という、茅ヶ崎が好きという意味ですけれども、ウェブサイトをつくってまして、その中のインスタグラム、これは自由に投稿できるコーナーがありますので、もし人を集めて何かイベントをするとか、このようなこのようなことがあるというのがあったら、ごめんなさい、宣伝になってしまうのですけれども、無料なので、お気軽に投稿していただければと思います。ぜひ一度ご覧になってくださいませ。以上です。

○山田委員長

今の情報もしよろしかったらチャットにチラッと書いておいていただいてもいいかなと思いますので、お願いいたします。

では、続きまして、関連事項、その他何でも結構ですけれども、コメント、いかがでしょうか。川上さん、お願いいたします。

○わんにゃんマルシェ実行委員会

今年1年、コロナのもとで、うちは年に1回のイベントがメインということもあって、イベントが開催できるか、できないかから始まって、どうするみたいな感じだったので、1年を通していろいろな発信をしていけたらいいなと思って、イベントが開催できなかったときも考えて、わんにゃんマルシェがどういうことかとか、いろいろな人に知ってもらえる工夫をしたいなと思って、今回、今年度のステップアップのほうでは、セカンドワークさんをお願いしてホームページを整えてもらおうかなというのも考えていま

して、あと、昨年度につくっていただいたパンフレットとかを市内の店舗さんとかに置いてもらえるように、常時設置してもらえるようにしていきたいなと思っていて、そういうところでのつながりみたいなものつくれたらいいかなと思っています。以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。

そうした活動展開、活動紹介といったことについても、相互協力のような形でネットワークが広がっていけばということですが、同様に、そのような感覚や、あるいは悩み、あるいは成果などをお持ちでしたら、ご紹介いただいてもいいかなと思いますが、いかがですか。または、委員からの提案などありましたら、お聞かせいただきたいと思います。染谷委員、お願いいたします。

○染谷委員

先ほどから共有の話が出ているのですが、今回の4Heartsさんの「みみところのポータルサイト」が、私は見ていると非常によかったのですが、つくられたセカンドワークさんから見ると、どのような感想をお持ちなのかなというのを聞きたくて、今、手を挙げました。よろしくお願いいたします。

○NPO法人セカンドワーク協会

我々のNPO法人セカンドワーク協会のウェブサイト制作において、非常に素晴らしい、自画自賛ですが、とてもよくできたウェブサイトではないかなと実は思っています。このサイトの目的、那須さんが込められたこの目的がまずは素晴らしいのですが、さらに、それをアピールするための中身、コンテンツ、これも本当に素晴らしいと思います。今、月6投稿されているというのは本当に大変なことで、今、那須さんご自身が投稿されるパターンと、原稿をいただいて、うちの協会に投稿しているパターンと2つあるのですが、それにしても、少なくとも原稿をつくるのは本当に大変なのですね。だから、まずそれが、今、染谷委員が感じられた素晴らしさの原点だと思います。

一方、器の出来もいいなと思っていて、これは実は、セカンドワーク協会の会員さんも入っているのですが、株式会社ボンド様の市川ご夫妻に全面的に支援していただいて、全体のデザインも市川デザイナーのデザインですし、ウェブサイトのつくりも、投稿を一番頭に持ってきて、あと、例えば、You Tubeも見られるし、例えば、キーワードで全体の記事が検索できるとか、いろいろな仕組み、かなり難しい仕組みも入れています。これも市川さんに助けていただきました。ですので、コンテンツはもちろんのこと、ウェブサイトの構造、デザイン、これも本当に良くできているなと思っています。

○山田委員長

ありがとうございます。

指定された時刻が11時40分で、そろそろ終了時刻が近づいてきましたので、意見交換はここで打ち切りとさせていただきますが、今、皆さまからのご発言、感想などを伺っていますと、結果的にはということですが、イベント実施などを踏まえた活動の展開が、参加をしてくださる方、自分たちの団体の中での意見交換やコミュニケーションが非常に大きく皆さま方団体の、センスと言うと大変失礼な言い方になるかもしれませんが、磨きにつながっている。その相互成長の結果、余計にその実感が次のコミュニケーションを求めているというところが大変よくわかりました。

この点では、茅ヶ崎市全体の課題をまさに提案いただいたというような印象で、もちろん自治体としての市の役割、私たち委員会の活動という意味でも課題がかなり明確になった。つまり、そういうことをサポートするということですね。明確になったのと同時に、団体の皆さまにおいても、そのようなさらなる広がりというものを具体的に次に向けて考えたり、実践を期待していたりというところがわかったというのも、これも大きな意見交換の成果ではなかったかなと思います。

ですので、私たちにとっては大変重要で重い宿題ではありますが、委員会の中でもそのあたりを検討してまいりたいと思いますし、引き続き、団体の皆さまにおかれましても、そういったご意見、ご要望などをぜひお伝えいただいたり、または皆さま方のご自身の相互的な乗り入れの努力などを通じて、さらなる茅ヶ崎市の活力ですね、こうした発展が期待できるというところも見えましたので、引き続きご協力くださればと感じました。

こういった強い思いで、また茅ヶ崎がさらに発展、発達していくという実感も得ましたので、こうしたところをまとめの言葉にかえさせていただきます。総括質疑ということでお開きにさせていただきたいと思います。皆さま、ご協力どうもありがとうございました。

それでは、司会にバトンタッチさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○事務局

皆さまありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会を閉会とさせていただきます。

最後に委員の皆さまにご連絡いたします。この後、お昼休憩を挟みまして、午後1時よりステップアップ支援の部の報告会を開始いたします。一度ミーティングは閉じてしまうのですが、12時半以降には再接続できるような状態にしておきますので、よろしく願いいたします。

それでは、皆さまありがとうございました。

○事務局

ただいまより、令和2年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会、ステップアップ支援の部を開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の小西と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

初めに、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員をご紹介いたします。委員長、よろしくお願ひいたします。

○山田委員長

承知しました。

皆さまこんにちは。これより午後の部に入りたいと思います。

市民活動推進委員を代表いたしまして、皆さまに一言ご挨拶を申し上げます。

市民活動げんき基金補助事業ですけれども、今日午前中、既にスタート支援の5つの団体の報告を聞かせていただきました。大変実りの多いといいますか、困難な状況下ではありますけれども、それぞれの工夫、努力がわかり、そのために非常にいい成果ですとか実績をご紹介いただいたという感じがいたしました。

このように、げんき基金補助事業が茅ヶ崎市の活力をもたらすといいますか、地域社会がさらに活性化する、そのような実現を目指してという理念がありまして、これまでも既に160前後の事業に対して、市からの財政支援を通じた、こうした活動が展開されているというのは、これは茅ヶ崎においても非常に重要なことですし、ある意味、市民の宝でもあると思っております。

そのような事業を推進してくださる団体の皆さまの活動、これによって地域社会に活力が注入されているというのは、大変すばらしいことではないかと思っております。これは、委員会全員の総意であると思っております。

ということで、今からご紹介いただきます皆さまからの報告を伺うことを私たち委員は大変楽しみにしておりますし、事前に頂戴いたしました実績報告書、事業成果の資料につきましては、それぞれ読ませていただきました。今後の活動に向けて、また、これがさらなるステップアップにつながるということで、この報告会がうまく活用されていくことを願いつつ、委員もその意味では今日のコメント、質問などをさせていただきたいと思ひます。

午後のステップアップ支援の5団体の皆さまに、この後、事業の成果をご報告いただくということを通じて、横のつながり、時間的なつながりなどがうまくつながっていくことを願いつつ、今日は私たちも聞かせていただきたいと思いますと思っております。応援メッセージもたくさん伝えてまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、市民活動推進委員を紹介させていただきます。名簿順ですので、画面とは違うかもしれませんが、名前を呼びますので、よろしくお願ひしますくらいの一言お話し

いただければと思います。

まず、副委員長の中川委員です。よろしくお願ひします。

柴田委員です。

菅原委員です。

染谷委員です。

中野委員です。

秦野委員です。

高橋委員です。

北川委員です。

本日は以上の9名と、それから、サポセンのメンバーの方々もオンラインで参加をしてくださっています。よろしくお願ひします。これに加えて、今日は報告団体の方が参加をしてくださっています。限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局

ありがとうございました。

本日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、原則、オンラインでの開催とさせていただきます。この方法での開催にご協力いただきました各団体の皆さま、委員の皆さまには、この場にて改めてお礼を申し上げます。

会場にいらっしゃる皆さまにおかれましては、マスクの着用やアルコールによる手指の消毒、感染症対策にご協力いただきますようお願い申し上げます。

また、オンラインでの報告会となりますので、機器接続の不具合などの可能性もあります。ご容赦いただければと思います。報告団体の方と通信が途切れるなど、報告が困難となった場合には、報告順を入れ換えるなどの対応をさせていただく場合もございます。団体の皆さまにおかれましては、適宜順番が繰り上げになる可能性もありますので、その際はどうかご協力をいただければと思います。

また、本日はオブザーバーとして、市民活動サポートセンタースタッフの方々にもご参加いただくこととなっております。ご承知おきください。

それでは、本日の報告会の流れについて、簡単にご説明申し上げます。

お配りしておりますピンク色の表紙の冊子をご覧ください。

本日、これから15時25分ごろまでのお時間で、令和2年度に実施した市民活動げんき基金補助事業のステップアップ支援5事業について報告をいただく予定です。

発表の時間配分についてご説明します。

最初に、報告団体より10分以内で事業について説明をしていただきます。

時間管理について申し上げます。

まず、終了1分前に一度ベルを鳴らします。

その後、終了予定の10分を経過したところで2度ベルを鳴らします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員から質問やアドバイスなどを行います。こちらは6分以内を予定しております。

説明中に2度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変なことかと思いますが、円滑な進行にご協力いただきますようお願いいたします。

また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。質問される委員の皆さま、回答される団体の皆さまについては、1問ずつできるだけ簡潔なやりとりをお願いします。

なお、本日の報告会の様子につきましては、写真やスクリーンショット等で撮影し、市ホームページや広報紙等で活用させていただく場合がございます。あらかじめこちらもご了承くださいますようお願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金となっております。冊子の5ページから6ページにかけて、寄附をいただいた方々をご紹介します。その他、冊子背表紙をご覧くださいと、茅ヶ崎市体育館に設置された湘南ヤクルト販売機の自動販売機、小和田公民館に設置されたダイードリンコ様の自動販売機の売上の一部をこちらの市民活動げんき基金にご寄附をいただいております。

これはお知らせとなりますが、これまで市民活動げんき基金は、市民の皆さまのご寄附と、その同額を茅ヶ崎市も積み立てるマッチングギフトを行ってまいりました。このたび、令和2年3月に発出した茅ヶ崎市財政健全化緊急対策、また、新型コロナウイルス感染症の影響にかんがみて発出した令和3年度事業実施方針を踏まえ、令和3年10月1日以降に受領する寄附に対するマッチングギフト積み立てについては、当面の間休止することとなりました。

市の積み立てであるマッチングギフト積み立ては休止となるのですけれども、寄附そのものの受付を終了するものではございません。市民活動げんき基金を原資とするこの補助事業についても引き続き補助を実施してまいりたいと考えております。

本日は、原則オンラインでの開催にはなっておりますが、市役所の会場内には市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。ご来場の皆さまにおかれましては、制度の趣旨をご理解いただき、どうかご協力いただければ幸いです。

それでは、ただいまより、各事業の報告を開始いたします。

では最初に、「～サッカーを通した運動教室～」について、ミナスタ様からご報告をしていただきます。準備のほうをお願いいたします。

それでは、お願いいたします。

○ミナスタ

こんにちは。ミナスタの「～サッカーを通した運動教室～」をしている三浦です。よろしくお祈いします。

このたびは、コロナ禍における中、信頼し、サポートしていただき、ありがとうございます。

当初の目標として、10園を目標として実施していたのですが、なんと2園になってしまいました。他の園は、時期を見てという形で、また様子を見ながら進めていく方向でやっております。

コロナ対策としては、スタッフのサッカーを通した運動教室前の検温、スタッフのサッカーを通した運動教室前の手先のアルコール消毒。極力マスクを着用してサッカー運動教室をいたしました。

2園の保育園ですけれども、茅ヶ崎こども園が3回と、もりのこ保育園が4回、計7回、延べ120名程度の子どもたちとサッカー運動教室をしました。いずれの日程も、8時ごろからサッカーを通した運動教室の内容の確認と準備、9時半から、3歳児30分、10時から4歳児45分、10時45分から5歳児45分、終了した後は、先生たちと子どもたちの様子を話し合ったり、スタッフ同士でこうだったね、ああだったねという内容の反省会や片づけ、次回に向けての打ち合わせなどをしていました。

運動能力の向上や体を動かす楽しさを知る、自己肯定感をはぐくむ教室という形でやっているのですけれども、冊子にも記載しているのですけれども、やらせるだけではなくて、やってもらいたくなるようなコーチングや、しぐさや表情に気をつけながら実施していました。

例でマスクを外して、マイクから離れてやらせていただきます。表情がわかりづらいかもしれないですけれども。ゴールしたときに、ただ「やったね、ゴール、ゴール」とかではなくて、「やったね！ ナイスゴール！」と仕草をプラスするだけでも子どもたちの食いつきが変わってきます。そんな気持ちで子どもたちと毎回過ごさせていただいておりました。

子どもたちは、ちょっとした表情やしぐさによって、やらされているのではなくて、やりたくなるという気持ちで取り組んでくれていました。それなので、子どもたちも毎回楽しみにしてくれる様子が伝わってきています。

それともう一個、スモールステップのカリキュラムで自己肯定感をはぐくむというところですが、徐々に難易度を上げたメニューとすることによって、子どもたちの「できた」という数が増えてきます。先ほど言ったように、やらせるのではなくて、自分たちからやりたくなるような教室を心がけて、毎回やっています。できたことが自信になって、みずから動くようになって、また、どんどんチャレンジする気持ちを養ってきました。

ちょっとしたムービーですけれども、今回は、説明だけではなくて、動画もありますので、見ていただければと思います。

(動画)

先ほど言ったように、やらせるのではなく、やってもらえるようなコーチングをしています。

そして、これも、友達が帰ってきたらスタートするねという形で、どんどん自分たちでやっています。最初のステップアップのカリキュラムではないですけども、徐々に難易度を上げて、難しいことをみずから子どもたちにやってもらっています。

これは、視覚的にも大きいものだったり、コーンが寝ころがったりするようなものです。

これは、僕が、10、9、8、7という掛け声をしながら、秒数以内にゴールを決めるというトレーニングです。

これは、試合の様子となっています。

子どもたちには、勝ちも負けもあるけれども、まずは楽しむことを中心に伝えていきます。この楽しむことから今後につなげていただければいいなと教室を実施しています。

ありがとうございます。

最後に、コロナ禍であるものの、保護者や子どもたち、先生方の要望があり、屋外に限定して2園の活動を実施させていただきました。当初掲げていた天候不良などによる場合の室内運動教室は、コロナ禍なので今のところは当面なしという形で実施していました。

参加を見送った公立保育園の6園があるのですけれども、今後、この時期が開けましたら、また一緒にやりたいということもいただいています。

ありがたいことに、参加された2つの園は、クラスターなども起きず、無事終了することができ、5月からまた新たにスタートして、さらに、もう1保育園が追加で、今、3つ、既に行っています。この新しい保育園は、公立保育園とかではなくて、全く新規の辻堂にある、まなびの森保育園が新しくできたのですけれども、そこの園長先生から問い合わせがありまして、ぜひサッカー教室をやってほしいということで、先日伺って、また6月もぜひ来てほしいということで、決定しています。

最後に、この活動ですけれども、毎年、言われるのが、三浦君1人だったら大変だよねというお話をよく聞いていて、もちろん1人だと、できることとできないこと、たくさんあるのも実感しています。それで、今はサポートしてくれる仲間もいて、1年間、2人で一緒に活動することによって、もう1人の仲間も子どもたちから信頼を得て、先生たちからも信頼を得て、今は、僕が行かずとも、どちらかが行く方法で活動ができるようになりました。

新たな人たちも、一緒にやってみたいという方もいるのですが、これは僕たちは子どもを預かる人として、いきなり1人で行かせるというのは、はっきり言って、今もできないと思っています。ただ、一緒にそうやって活動をする中で、子どもたちの信頼や、先生方、保護者の方たちの信頼を得てから、初めて1人で行ってもらって、みんなのできるようなサッカーを通した運動教室をできればいいなと考えています。

以上が報告となります。

○事務局

ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、コメントがありましたら、ご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。では、中野委員、お願いします。

○中野委員

三浦さん、お疲れさまです。ありがとうございます。新しい活動先の保育園が増えたりとか、仲間が増えたという、すごくうれしい報告があつてよかったなと思います。

公立保育園については、今年度はどのような形になっているのでしょうか。依然難しいような状況なののでしょうか。

○ミナスタ

今のところ、公立保育園も時期が明けたらという形の話で、公立保育園は、今、保育園自体、外部の人を受け入れない状態になっていて、僕だけではなくて、読み聞かせの人や、保護者の子どもたちへの園の受け渡しも外でやったりしている状況で、その中で、サッカー教室は屋外だからいいやでやってしまうというわけにはいかないというお話で、今もまだ実施できていない状況です。

○中野委員

わかりました。

今回、げんき基金補助事業でいろいろな道具をそろえられたと思うのですけれども、どこかで活用していただけるとすごくいいなと思っていますので、何かしらの方法で三浦さんの思いが伝わる場所が増えていくといいなと思っています。

○ミナスタ

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いて、ご質問、コメント、ありましたら、どうぞお願いいたします。染谷委員、どうぞお願いいたします。

○染谷委員

説明どうもありがとうございました。家の近くに香川保育園があるので、来るときを楽しみにしていたのですが、残念で、これからどうかと思っております。

収支決算書を見ると、げんき基金補助事業の申請時に比べて、変動する部分がかかなり多いなと感じているのですが、これは、屋内用のものを今回はやらなかったの、購入しなかったという意味なのか、全体数を減らしたという意味なのか、その辺を教えてくださいなと思うのですが。

○ミナスタ

ビブスなどの購入もあったのですけれども、こちらのほうも必要枚数を減らしました。なぜなら、架け橋づくりというのを目標にしていたのですけれども、架け橋づくりができなくなって、もりのこ保育園とこども園ではやろうというお話だったので、こちらのほうも、今の時期に本当に無理してやる、やらないという選択を迫られたときに、この時期は無理するところではないからやめておきましょうという形でやめて、その分、ゴールの数を減らしたり、ビブスの数を減らしたり、マーカーの数を減らしたりという意味で、だいたい収支のほうが変わってしまいました。

○染谷委員

気になったのは、これが、今後、屋内ができるようになったときに足りなくならないのかなというのが少し気になったのですが、それはないということですね。物としては買ってあるということですか。

○ミナスタ

ゴールとかの数は1セットしかないの、それをどうやってやっていくかは検討していかなければいけないなど。

○染谷委員

どうもありがとうございます。

○山田委員長

続いて、ご質問、コメント、どうぞお願いいたします。では、中川委員、お願いします。

○中川副委員長

ミナスタの提案が一番最初にされたときから、3年間か4年間ずっと見守ってきてい

るのですけれども、中長期的な将来像ですけれども、これは、もちろんいろいろな備品がそろい、スタッフもそろったというか、それでよかったと思うのですけれども、サッカーを入り口としてどのような市民団体として将来活動していくのかということのイメージがありましたら、お聞かせいただきたいのですが。

○ミナスタ

「サッカーを通した運動教室」という名前のおり、サッカーだけが全てではないと
思っていて、僕ができることは、サッカーをツールとして、子どもたちに体を動かす楽し
さとか、自己肯定感を育て、やったー、できたーが増えて、それで子どもたちが小学生
になったときに、また運動とかスポーツに携わってくれたり、何か苦しいときに、そうだ、
あのとき、頑張ればできる、あきらめなかったらできるという気持ちを持ってやってもら
えたらいいなという活動をしています。

長期的に見て、ありがたいことに、新しい保育園とかは、仕事として来てくれと言わ
れたのですけれども、そこはお断りしまして、そうではなくて、僕たちは、子どもたちを
できる限り支えていくという意味で、みんなで支えるという意味で、今後も続けていけた
らいいなと思っています。

○中川副委員長

では、保育園にこだわるということは、その時期の子どもの肯定感を育てるというこ
とに大変意義があるとお考えなわけですね。

○ミナスタ

はい。僕は、保育園の子どもたちに、今から伝えられることを伝えて、子どもたちの
成長に携われるために精いっぱいやるのが一番小学生になったときにためになるかなと
思ってやっています。

○中川副委員長

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

先ほど、柴田委員、手が挙がっていたようですので、どうぞお願いします。

○柴田委員

発表ありがとうございました。

以前、ミナスタさんの最初のプレゼンのときに、子どもたちの保育園の垣根を超えた
横のつながりをつくりたい、みたいなお話もあったと思います。今回、多分、コロナの関

係でそれは難しかったと思うのですけれども、今後、コロナが落ちついて、長期的なスパンでこの活動を続けるとなったときに、子どもたちの横のつながり、園の垣根を超えたつながり、みたいなところを厚くしていただければいいのかなと感じております。

あと、もう一個お聞きしたいのが、実際に今回の活動に参加されたお子さんとか親御さんたちからの実際の声みたいなものを三浦さんが聞いていけば、その辺聞きたいなと思っております。充実感とか、楽しかったとか、そういう部分で。

○ミナスタ（三浦）

自分でいうのもすごく恥ずかしいお話ですけれども、はっきり言って、子どもたち、めちゃくちゃ楽しみにサッカー教室を待っています。今回、サッカー教室をやるに当たって、子どもたちが楽しみにしているのでやってほしいということで、保護者のほうから、いつになったらできるの？というお話がありました。、僕が足踏みをしていたところ、背中を押された状態で開始しました。それなので、先ほど言ったように、すごくお恥ずかしい話ですけれども、子どもたちも先生たちも保護者の方たちも、めちゃくちゃ楽しみにしていると思います。

○柴田委員

わかりました。今後も応援しているので、活動継続、頑張ってください。

○ミナスタ

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

では、時間ですので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

ミナスタ様、ありがとうございました。

続きまして、「運動機能・認知機能が向上するスポーツリズムトレーニング！～楽しみながら心・頭・体を動かそう～」について、特定非営利活動法人S U E R T E様から報告させていただきます。準備のほうをお願いいたします。

それでは、よろしく願いいたします。

○特定非営利活動法人S U E R T E

皆さま、こんにちは。特定非営利活動法人S U E R T Eの内田と申します。これから事業報告をいたします。コロナのため、当法人も最小限のスタッフで本日の報告会の参加

となりますが、よろしく願いいたします。

まず初めに、幼少期クラスの説明をいたします。

当初、2020年の6月から2021年の3月まで、2カ月1コース、隔週の火曜日及び金曜日の2クラス、全10コース開催を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発令により、8月31日まで事業の開催を控えることとなり、改めてスケジュールを組み直し、10月から教室をスタートいたしました。そのため、10月から3月までの全6コースの開催となりました。

また、当初の予定では、総合体育館、柔剣道場のみを使用する予定でしたが、コロナの影響でスケジュール及びコース変更による会場の組み直しを迫られ、総合体育館の第1体育室も使用して活動を行いました。

活動するに当たり、感染症対策として、開始前の検温、アルコール消毒の実施、間隔を開けての運動を徹底いたしました。

企画の段階では、各コース10名の参加者を募集し、教室の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響でキャンセル等もあり、その結果、10名を下回ってしまうコースもありました。

そのような中で、教室終了後に保護者の方々のご意見を伺うと、子どもたちが新型コロナウイルスによりさまざまな場所で運動を制限されている状況が続いており、体を思い切り動かす場がなく困っていたため、子どもたちにとってさまざまな運動を行える教室に参加できたことはよかったとの意見を多数いただくことができました。

また、体操教室やサッカー教室といった専門性のある教室ではないため、現在はスポーツを行っていない子どもが体を動かすきっかけづくりとして気軽に参加することができたという声もいただきました。

当初は、子どもたちの運動能力の向上を目的とした教室と考えていましたが、参加者の方々のご意見から、運動能力の向上だけではなく、コロナ禍で子どもたちが運動できる場所の確保ができたという点では、少数ですが、茅ヶ崎市民の方々のお役に立てたのではないかと思います。

そして、補助金で購入したスポーツ用具を使用することにより、子どもたちが楽しく新たな運動につながられ、高齢者の方々の運動にも使用し、フィットネスチューブでは筋力を、ソフティボールを蹴ることにより瞬発力を実感できたという感想をいただきました。

今回の補助金で購入した物品を最大限に活用し、今後も地域の子どもたちや高齢者の方々に運動の楽しさや運動能力向上のために貢献できるような活動を行いたいと思います。

今回の教室には46名の参加をいただきました。教室終了後に、現在、当NPO法人で開催している運動教室に15名の方に引き続き入会していただくことができました。

今後は、今回の運動教室を行った際に参加者の方々からいただいた意見をもとに、現在行っている教室に新たな3クラスを設置することを目標に活動を行っていきたいと考えています。

1つ目は、現在、運動を行っていない子どもたちに向けた、きっかけづくりとなるクラスの開催。2つ目は、今回の運動教室に、年少、年中の参加者が多かったため、年少から年中向けのクラスの開催。3つ目は、専門種目を真剣にトレーニングし、将来、トップレベルを目指している子どもを持つ保護者の方から、より高度なトレーニングを行えるクラスを開催してほしいという声もいただいたので、ジュニアアスリート育成コースを開催したいと考えております。

次に、高齢者教室についてご報告いたします。

高齢者教室の活動計画では、総合体育館を利用しての体操教室を予定しておりましたが、新型コロナの影響で、高齢者の室内での活動は、感染リスクを考慮し、中止も検討いたしました。そのような中、以前、マイクロバスを利用した近隣の公園でのウォーキングに参加していただいた高齢者施設の方とお話しをする機会があり、コロナ禍のため、外出を制限されている高齢者のために活動できないかという運びになりました。

活動計画の変更を、市民自治推進課に相談の上、高齢者施設からマイクロバスで活動場所に移動し、屋外での運動教室を行う活動に変更いたしました。感染リスクの少ない屋外の施設として、スクエア茅ヶ崎フットサルクラブさんに活動を賛同していただき、周囲の緑に囲まれながら、入居施設以外の方との接触もなく、歩行訓練や介護予防運動、オール体操などを行うことができました。

また、施設からフットサルクラブまでのマイクロバスでの移動も、車窓からの季節の移り変わりを楽しめ、家族との面会も制限され、施設から一步も出ることができない中、外出できて気分転換ができましたと参加者の方々はとても喜ばれました。

今年度もこの活動に賛同していただき、継続することとなりました。今後は、市内の高齢者施設にこの活動を周知し、コロナ禍で外出の機会が減少している高齢者施設の方々に少しでも気分転換や外出ができればと思っております。ぜひ茅ヶ崎市役所の方々にもご協力をお願いしたいと考えております。

コロナの影響により、当初の計画どおりとはなりませんでしたが、げんき基金補助事業の活動により、コロナ禍で少しでも市民の方々に運動の場を提供できたことは、今後の活動においてよい経験となりました。

こちらが、幼少期の体操の様子で、ストレッチをやっている様子です。

こちらが、子どもたちがリズムトレーニングという、テンポに合わせてジャンプをしたり、指示に従って活動する体操の様子です。間隔をあげながら運動しております。

そして、こちらは、フットサルクラブへのマイクロバスの移動の高齢者の方々のご様子になります。シートを1人ずつ座っていただき、マスクを着用していただいております。

こちらは、乗車の様子ですね。皆さま、マスクを着用して、開始前に検温、血圧測定をして参加していただきました。

短いですが、報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、コメントがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。では、中野委員、お願いします。

○中野委員

SUERTEさん、ありがとうございました。

質問ですけれども、プレゼンの資料を改めて読んだときに、課題認識として、運動教室に通える子と通えない子との格差のことに少し触れられていたのですけれども、今回、子どもたちの運動教室をやるということで広報するに当たって、何かそのあたりを意識されたということはあるのでしょうか。どのようなところで広報活動されたのかということをお聞きしたいなと思います。

○特定非営利活動法人SUERTE

ホームページ等で募集を募ったり、あと、体育館等に掲示をして体操教室の開催、そして、NPOなどや幼稚園等の保護者の方々にご案内させていただいて、あとは、当施設の教室に参加されている方々にご案内もいたしました。友達、お母さんたちのコミュニケーション力を今回すごく力強く感じました。お友達の紹介がすごく多かったので、また、コロナのために大々的な広告ができなかったのも、そこが残念だったなということも感じております。

○中野委員

ありがとうございます。

今後、また新たにクラスをいろんなニーズに応えるような形でつくりたいということの話があったので、ぜひ広く、誰でも気軽に参加できるような場も、機会もつくっていただけたらなと思います。

○特定非営利活動法人SUERTE

ありがとうございます。

○山田委員長

では、続いて、質問、コメント、いかがでしょうか。高橋委員、お願いします。

○高橋委員

発表ありがとうございました。

単純な質問というか、こういったコロナの状況で人を集めて何かをするというのは、本当に厳しい状況で、これはどの団体さんもそうだったと思うのですけれども、自分が聞きたいのは、高齢者向けの教室でマイクロバスに乗って、その中でのコミュニケーションが楽しかった、みたいなのがあったかと思うのですけれども、高齢者の参加者というのは、これは、1つの施設に限定したものだだったのか、それとも複数の施設を回って送迎していたものだだったのかという。どのような施設の人たちが参加していたのかなというのが気になったのですけれども。

○特定非営利活動法人SUERTE

今回は、コロナ禍の影響があったために、元々活動を一緒にしていただいた施設と活動させていただきました。すみません。各施設ごとにですね。合同ではなくて、施設ごとに活動をしました。

○高橋委員

幾つくらいの施設と活動されたんですか。

○特定非営利活動法人SUERTE

今回は、賛同していただいたのが、ケアネット徳洲会というグループが賛同いただいたので、こちらのほうにお声がけ、系列の方に施設ごとに参加していただきました。

○高橋委員

徳洲会関係の施設ということですか。

○特定非営利活動法人SUERTE

はい。今回、賛同していただいた施設がそちらでしたので、そちらとやりました。

○高橋委員

わかりました。

○山田委員長

では、続いて、質問、コメントをお願いいたします。いかがでしょうか。あと1人大丈夫だそうのですけれども。

よろしいですか。では、自分から1つだけ質問させていただきます。

今回のこのような活動を通じて、団体の皆さまは、スポーツの、運動の持つ魅力、可

能性を、多分言葉にする必要性というのを大変強く感じられたと思うのですけれども、そのように、賛同者を得るための魅力の言葉というのは、その後、活動を振り返りつつ、団体の中ではいろいろ話し合いをされたりしていらっしやるのでしょうか。

○特定非営利活動法人S U E R T E

子どもから高齢者の方、年齢に隔たりなく、横のつながり、縦のつながりを重視していければなど考えております。

○山田委員長

ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、質疑応答を以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

S U E R T E様、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「みんなの居場所作り事業」について、サンチャイ・ネパール ねばるば様より報告していただきます。準備をお願いいたします。

それでは、準備ができましたら、お願いいたします。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

サンチャイ・ネパール ねばるばの永田恵子です。よろしく申し上げます。

川端麻理です。よろしく申し上げます。

私たちは、今回、サンチャイ・ネパール ねばるばのステップアップ事業として、茅ヶ崎市都市政策課の空き家利用など、マッチング制度による空き家をお借りして、居場所作りに取り組んでおります。ネパールのコーヒーや物産を楽しんでもらいながら、誰もが集える場所作りをしていきたいと、「みんなの居場所びすた〜り」を2020年9月1日、オープンいたしました。

今回のげんき基金補助事業では、このオープン事業の部分で大変お世話になりました。当初、2020年4月、オープンの予定でしたが、コロナウイルスの影響で6月より準備を始め、9月のオープンとなりました。

9月にオープンしても、自粛が続き、大々的なアピールはできませんでした。出鼻をくじかれたと言えそうですが、私たちメンバーにとっては、ゆっくり始められたことはありがたいことでした。

びすた〜りに集まったスタッフは、スタッフ同士は知り合いでしたが、お互いのことをよく知りませんでした。準備に集まり、ともに過ごすという期間をじっくりとれたことで、お互いの心が通じ合った形でスタートできました。

それでは、今回、利用させていただいたげんき基金補助事業の内容について、具体的にご報告させていただきます。

コロナ対策費として、コロナ禍でも安心してお客様に来ていただくために必要になったコロナ対策物品について、げんき基金補助事業で購入させていただくことができ、とても助かりました。体温計、アルコール消毒液、予備マスクなどを買わせていただきました。ありがとうございました。

次に、オープンに向けての場作り。

誰もが気軽に利用できる場作りをしていくために、以下のようなものにげんき基金補助事業を使い、用意させていただきました。

おもちゃについて。

購入したおもちゃは、KAPLA、なんじゃもんじゃカード、どんぐりコロコロ。どれも素材のやさしさがあり、子どもも大人も一緒に楽しめるものなので、お母さんがお話し会やワークショップに参加中のお子さん、それから、ひよっこり来てくれた小・中学生がスタッフと一緒に遊ぶのにも大活躍いたしました。

畳みに座るのがきつい方のための足つき座いすは、和室で大活躍しています。

小さなお子さま連れの方も多く、子供用のおまる。2階に上らないようにするためのベビーフェンス。ベビー布団も喜んでいただいています。

びすた〜りにはトイレが2つあり、片方が和式だったので、和式便座用洋式カバーをつけることで、どちらも洋式になり、使い勝手がよくなり、助かっています。

次に、広報について。

まずは、びすた〜りの存在を知っていただくためのパンフレットづくりに心を込めました。これが自慢のパンフレットです。イラスト、デザイン、題字など、力強い仲間のご協力をいただき、素敵なパンフレットができ上がりました。

コロナによる自粛のため、当初の予定より広報物の配布範囲はやや減りましたが、9月から2カ月に一度のペースで「びすた〜りだより」を作成いたしました。印刷して、手配りで、市民活動サポートセンター、まちスポ、包括支援センターれんげ、パンフレットを置いてくださるお店やカフェ、ちがぼ〜、子育て広場に配布いたしました。

切手代では、お世話になった方々にパンフレットとともにお手紙を送らせていただきました。

そして、印刷したものを外に張り出すのにラミネーターがあることで、雨の日にもきれいな状態で見えていただくことができました。

自分のところのお知らせだけでなく、あちらこちらからお知らせを置いてほしいと頼まれることも多く、買わせていただいたウォールポケットの中は、いつもにぎやかです。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

次に、ワークショップ開催について報告いたします。

みんなの居場所「びすた〜り」の存在を知ってもらって、ワークショップの参加を通じて、地域の方々や居場所に来る方々のコミュニケーションを高め、このお家に愛着を感じていただきたいと思って、ワークショップを企画いたしました。

最初の予定では、4月早々に行う予定でしたが、コロナによる緊急事態宣言と、その後の自粛などで、なかなか人を集められるイベントを開催することができませんでした。また、講師の方々も変更いたしました。

その中で、1回目は9月3日、自粛の中でしたので、スタッフのみで集まり、粛々、かつ、楽しく棚づくりを実施いたしました。人をお招きすることはできませんでした。これから始まると思うと、わくわくしながら作業いたしました。

2回目は1月11日。人数制限をした上で、テーブルづくり。緊急事態宣言が延長されたために、広くお知らせをすることはやめざるを得ませんでした。スタッフとスタッフの子ども、以前から申し込み済みだった方のみご参加いただき、実施いたしました。とても素敵なテーブルができ上がり、参加者の方はとても喜んでくださいました。

子どもたちの木工ワークショップは、ビー玉転がしと、織り機を、くぎなどを打ちながら、思い思いに製作しました。参加者のお子さんたちはとても喜んでくださいました。そして、またこのようにここで何かやりたいという気持ちがふくらんで、3月末の子どもまつり開催へとつながっていきました。ありがたかったです。

わいがやワークショップ。壁塗りをしてみようは残念ですが、大家さん、建物管理のセカンドリーグ神奈川、私たち、三者での合意に至らず、実施することができませんでした。

次に、事業の成果と今後の展開としましては、みんなの居場所「びすた〜り」がスタートする前に、全くの想像でワークショップを企画してきましたが、参加していただきながら、びすた〜りの愛着を深めていってほしいという思いは、今も引き継がれていて、その後の子どもまつりや、ミニ上映会や、みんなでご飯などの企画に結びついていったと思っています。

ワークショップをするたびにびすた〜りのファンが増えています。このグラフにあるように、少しずつですが、びすた〜りに興味を持ち、訪ねてくださる方も増えてきました。そして、誰よりもスタッフがびすた〜りの家の居心地のよさに愛着を深めた1年となりました。お隣に住まわれている大家さんも、私たちの活動を喜んで応援してくださっていて、とてもありがたいです。

コロナ対策で、一度にたくさんの方をお招きすることはできませんが、びすた〜りの名のおり、少しずつ、少しずつ成長していると感じています。このお家には、子どもから大人まで、誰もがなんだかほっとしてしまうような温かい包容力があります。

びすた〜りを利用してくださった方から感想をいただきました。ご紹介させていただきます。

手仕事広場や子どもまつりなど、毎月のように利用させていただいています。小さな

子どもから年輩の方まで、幅広い層の交流の場ともなっている、とても温かな雰囲気のお家です。

みんなの居場所「びすた〜り」は、素敵な民家なので、公民館やコミュニティセンターとは違った、温かさや居心地のよさを感じます。

びすた〜りがお家の近くだということ、いつも知っている誰かがいてくださることが、娘にも私にも安心できる場所となっています。この場所がなければ、コロナと不登校と重なり、ますます家で孤立して悶々と過ごしていたと思います。私たち親子のように、刺激や情報あふれる世界で、どうしても社会に、周囲になじめず困る人は、これからも増えていくと思います。子ども食堂以外でびすた〜りのように多様な人々をフラットに受け入れてくださる居場所は、とてもありがたいことだと思っています。

びすた〜りを知り、時々遊びに来ます。1人でも居心地のいい空間です。ネパールに思いをはせます。文庫もよく利用させていただきます。違ったジャンルの本にも出会えます。いつもありがとうございます。

子どもから年輩の方まで、いろいろな年代の方と交流でき、いつも楽しいひとときと、大きな学びを提供してくださっています。これからもたくさんの人に利用していただきたいです。

イベントなどを通して、子どもから大人まで出会いのチャンスにも恵まれる居場所だと、私たちも自負しています。スタッフ一人一人の持つ素敵なキャラクターによる発信や企画もこれからますます楽しみです。子どもたちの居場所、みんなでご飯を食べるなど企画中です。これからもスタッフ、地域の人々と楽しく根っこを広げていきます。

ご清聴ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

では、委員からの質問、コメントをお願いいたします。いかがでしょうか。柴田委員、どうぞお願いします。

○柴田委員

発表ありがとうございました。

1点お聞きしたいのですけれども、10月と12月、2月、3月が70人以上の方が集まっているのですけれども、これは、ワークショップとかイベントを開催されたからこういう人数が集まっているということでしょうか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

はい、そうです。イベントのときに集まった人数が増えているということです。それにつれて、少しずつ日ごろの人も増えています。

○柴田委員

3月の165人というのはどのようなイベントを開催されたんですか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

映画会と子どもまつりですね。映画会が何回か。

○柴田委員

ありがとうございます。

あともう一点だけいいですか。今、この居場所で、既にこの人は必ず来るなみたいな方は大体何人かいらっしゃるのですか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

そのイベントを楽しみにしている方とか、精神障がいを抱えている方が曜日で来るとするのは、そんなにたくさんではないですけども、何人かいらっしゃいます。5～6人ですね。

○柴田委員

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いて、質問がありましたら、どうぞお願いいたします。では、中川委員、お願いいたします。

○中川副委員長

コロナ禍でいろいろ工夫されながら活動されているということですが、実施が月曜から金曜、10時から17時ということで、毎日ここはオープンして、スタッフの方がいつも詰めていらっしゃるという状況で理解してよろしいでしょうか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

はい、そうです。

○中川副委員長

スタッフの方は、毎日、毎日行ってらして、何人くらい全部でいらっしゃるのでしょうか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

毎日詰めているのは私1人で、あとはいろいろな方が代わり番こに、曜日によって来てくださっています。

○中川副委員長

それはボランティアさんとしてですか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

全員ボランティアです。

○中川副委員長

そうすると、スタッフの方たちの経費はゼロということですね。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

家賃とか、光熱費とか、いろいろ。

○中川副委員長

それはもちろんでしょうけれども、スタッフの方たちは無償のボランティアさんということですね。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

手弁当です。

ちなみに、私の場合は、自分で手仕事広場を開いているので、その部分に関して、自分が講座を開いて、参加費をいただいてということは別にはしていますけれども、びすた〜りとしてお金をいただいているということはないです。

○中川副委員長

そうですか。大変なエネルギーが要ると思うのですがけれども、継続して、皆さまボランティアさんを含めて、先行き何か課題があるみたいなことはお感じになりますか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

やはり、もう少し皆さまに広く知っていただき、広くご利用していただくことを心がけていかなければいけないと思っています。私たちもずっと手弁当でやっていけるかとい

うことも少し検討しながら、それでも多くの皆さまに来ていただける努力をしていきたいと思っております。

○中川副委員長

地域の中にこのような居場所があるというのは本当に救われる方もいらっしゃると思うので、ぜひ頑張って続けていただきたいと思います。ありがとうございました。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

ありがとうございます。

○山田委員長

では、続いて、質問いかがでしょうか。あとお一人ですね。どうでしょうか。

では、自分から1つ伺います。こうした活動は、もちろん、ゆっくりとか、小さくとも貴重な幸せや喜びをたくさん蓄積する活動だということが大変よくわかりました。その意味では、評価は、数だけではなくて、いろいろな喜びを記録するということが大事だということも伝わってきたのですけれども、これについて、皆さまが心がけていること、モットーにしていること、そうした小さな喜びをきちんと伝えていこうというふうに取り組まれてきたことなんかを、少し追加で紹介していただけないでしょうか。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

正直なところ、日々の目の前にあるいろいろな方との対応が大変なときがあります。その方にどのように寄り添っていけるかということを考えながら、私たちスタッフも皆さまと一緒に楽しみながらやっていきたいと考えております。

びすた〜りのフェイスブック、ホームページ、それはつくらせていただいている、各自、思いが、このようなことでよかったとか、こういうことがうれしかったということは、少しずつですけれども、上げさせていただいています。

○山田委員長

ありがとうございます。よくわかりました。

それでは、時間になりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

ねばるば様、ありがとうございました。

それでは、ここで休憩のお時間をおとりいたします。14時15分から再開いたしますので、それまでにお戻りいただきますようお願いいたします。

(休 憩)

○事務局

それでは、再開させていただきます。

続きまして、「2020上陸20回記念事業 陸上版『えぼし岩海の自然体験教室』」について、えぼし岩海の自然体験教室実行委員会様より報告させていただきます。ご準備をお願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。お願いいたします。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

こんにちは。では、始めさせていただきます。

私たちは、えぼし岩海の自然体験教室スタッフの小峰です。

山田です。よろしくをお願いいたします。

まずは、ご支援いただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、今回も充実した海の活動を開催することができました。本日、ここに結果報告と今後の展望ということで、私たちの1年間やったことをご報告させていただきます。

今回、「上陸20回記念事業」ということで、私たちはえぼし岩での活動を古くからやっていて、今度行けたら20回目だったのですが、残念ながら、ご存じのとおり、コロナでなかなか準備、開催等、難しく、今回は中止しました。それに伴い、変更した部分も含めて、今回、報告させていただきます。

まず、大きく分けて私たちが行った陸上版での活動、3つあります。リーフレット。お手元にあります方は、リーフレットをご覧になりながら聞いていただければと思います。2つ目が動画の配信ですね。Y o u T u b eを使って動画を作成して配信しました。そして3つ目、今回の事業のメインである講演会。えぼし岩についての陸上版での講演会を開催させていただきました。

順番に説明させていただきます。

まず、こちら、お配り資料、リーフレットですね。こちらの表面と裏面というのがあります。この細長いものをめくっていただくと、かなり大きなものになります。画面でもお手元のほうでもどちらでも見ていただいて、表側には、茅ヶ崎えぼし岩の歴史ですとか、人々とのかかわり、文化的な部分などなどを紹介しています。

左上のところ、ドローン撮影。げんき基金補助事業からのご協力により撮影資金を出すことができました。

ぐるっと回って裏側ですね。こちらでは、主に自然、生物、海の魅力といったところをトピックス立てして、海に行く際の注意、どのような生き物がいるの、海の中はどのようなになっているの、あと、海の中だけではなくて、陸上、えぼし岩の陸、岩の上にもいろ

いろいろな生き物がいますので、そういったものを事細かに紹介しております。

この作成に当たり、いろいろな情報を私たちは調査を重ねていきました。私たち自身の例年のえぼし岩の上陸。これまで、僕自身も回数で言うと10回くらいえぼし岩に上陸しているのですけれども、その中で見てきたいろいろな生き物たちの様子ですとか、エピソードなどなど、ぎゅっとまとめたものが、裏側の海のページのパンフレットになります。

また、今回、調査費ということで、水中ダイビング調査をしまして、私たち、海のチームの精鋭たちそろいですので、ダイビングの有資格者たちが何人かいるんですね。そういったチームで実際にえぼし岩周辺の海に潜って、いろいろな生物ですとか、海の様子を撮影して、このリーフレットの中に盛り込んであります。

こうした活動の中で、私たち調査することで、自分自身のえぼし岩への知見ですとか、周囲の人々のつながりなど、本当に得たものが多くて、私たち自身にとっても大変有意義なものとなりました。

また、次に動画配信です。本当はここで流したかったところなのですが、動画自身、10分以上ありますので、ぜひ皆さま、リーフレットを開いた内側の面の左下にYouTubeチャンネルのリンクURLがあります。これをピピッとさせていただくと、スマートフォンから見ていただけたと思いますので、後でゆっくり見てください。

これも、このリーフレットをつくったデザイナーさんと一緒に協力して、同じようなテイスト、同じような中身で、わかりやすく解説した動画となっております。

このように、私たち、画面の中に登場して、えぼし岩をぐるぐる紹介していますので、ぜひご覧になってください。

そして、この事業のメインですね。講演会。えぼし岩の講演会を、本当は、私たち、えぼしに渡航している7月に合わせて、夏に陸と海でという開催を予定していたのですが、皆さまご存じのとおり、なかなか難しく、私たちが準備できたのが夏くらいからという感じでしたので、3月の開催ということになりました。

講演会については、高砂のコミュニティセンターの皆さまに全面的にバックアップいただきまして、すごくいい講演会をすることができました。

少し講演会の中身を紹介させていただこうかと思います。

このように会場をお貸しいただきまして、夏に本当はやりたかったのですけれども、3月の開催となりました。また、感染症対策ということで、定員を半分くらいに減らしたりですとか、皆さまにマスク、消毒等々をやっていただき、この時代ならではの開催だったかなと思います。

その中身です。

講演会の中身は、大きく3部構成でお話しさせていただきました。海の生き物、自然という部分、後から出しますが、歴史文化の部分、そして、海の環境、今後の課題みたいな部分の3部構成で講演会をしました。

まず、海の生き物は、見ていただければいいかと思いますが、本当にいろいろな生き

物が海の中にいるんです。すごい楽しい場所なんですね。茅ヶ崎の海というのが。いろいろな、四季折々、命のドラマが見れるという話で、この中だったら、真ん中の下のはアオリイカの卵なんですね。イカが産卵するシーンとかも見れるんですよ。あと、子どもたちに人気のハコフグですとか、本当に楽しい生き物がいる。また、それだけではなくて、そんな海で安全に遊ぶためにはどういうことを気をつけなければいけないかですとか、そういう注意事項などなどの紹介も含めてお話しさせていただきました。

そして、2番目、えぼし岩の歴史。えぼし岩っていつごろできた岩なんでしょう、ですとか、小和田熊野神社に石碑がありまして、和歌が刻まれているのですけれども、ここには「姥島」という言葉が出ていますね。この和歌がちょっとした漁師さんのもめ事を解決したという、そんな歴史的なエピソードもあったりするんですね。あとは、茅ヶ崎漁港の少し先、平島という場所をご存じの方は多いと思うのですけれども、あそこも同じくらい古い岩なんですね。

という話ですとか、あと、左下は、葛飾北斎の絵の中にも姥島が登場しているんですね。こういった姥島、えぼし岩と私たち人間との歴史文化についてご紹介させていただきました。

そして、最後、いい話ではないですが、どうしてもついて回るごみの問題が海にはあるんです。私たち茅ヶ崎の海も例外ではなく、少し潜ってみて、僕も実際に見てきましたが、なかなかショッキングなものがたくさんありました。そういったところも紹介しました。

左上の写真は、2メートル四方くらいの砂浜の中から、ガサガサとふるいにかけて、すごい量のごみが出てきたという話ですとか、右上は、調査でえぼし岩に上陸した際に、目につくプラごみを少し拾ってみると、ほんの10分程度なんです。ちょこちょこどぐるっと一周したら、掌いっぱいのごみを集めることができました。こういう地上のごみの影響がどれだけ海の中にあるかということを確認することになりましたね。あとは、ゴルフボールとか、ペットボトル・空き缶、写真に載せていないものも幾つかあったんですね。ビニールごみですとか、空き缶とか。そんなこともお話しして、実際、コミュニティセンターでやった講演会の際に、机の上にそういったごみを並べて、参加者の皆さま、手に取って、いろいろ思っただくという機会を設けさせていただきました。

そうした生き物、自然が楽しい文化から、そして今、こういう課題があるということをお伝えした上で、皆さまから私たちの海ってそんな楽しいところなんだ、すごいところなんだ、でも、そういう問題もあるんだというところで、よりリアルで、実感的な部分を感じてもらえたのではないかと思います。

実際、事後の感想をいただいたところ、海のために私たち、何かしたい。できることはないかな、このようなことをしたいというコメントが幾つも寄せられまして、この事業は本当に有意義だったなと改めて実感することができました。

そして、今後の展望というところですね。まず、陸上版のメリット、こうして会場、

いろいろなところでできます。人数も5人、10人から数十人、規模によっていろいろできると思います。また、室内ですので、天候による影響を受けません。季節なども選ばずに開催することができます。そして、誰でもそれを見ることができる。ここら辺、すごくメリットがあると思うのですね。もちろん、体験すること、これが海では何より大事な部分ですけれども、海での実体験、感動、五感を感じるという部分と、陸上版で誰もがみれるということを並行して私たちがやっていくことによって、本当にいろいろな人にこの海の魅力を伝えられるのではないかと思います。

私たちからは以上です。ご清聴ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしく願いいたします。

○山田委員長

では、委員からの質問、コメントありましたら、お願いします。では、中野委員、お願いします。

○中野委員

発表ありがとうございました。サポートセンターですけれども、サポセンのおまつりにも参加していただきまして、ありがとうございました。

動画も拝見しまして、すごく見やすくて、つついぐいと引き寄せられるというか、すばらしい動画だなと思いました。当初は、動画をつくったりという予定はなかったと思うのですけれども、このようにも短い期間でクオリティの高いものをつくられたところの背景を知りたいなと思ひまして、どういった方がつくられたのかとか、何かご苦労があったのかというところを、よかったらお聞かせください。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

もちろん、私たちえぼしチーム、全員、いろいろな意見を出しながらつくったのですが、このリーフレットをつくってくれたデザイナーさんがめちゃくちゃ頑張ってくださいました。ボランティアで。

みんなで本当に頑張ったんですよ。夜な夜な情報交換したりしながら、オンライン上でミーティングしたりして、僕らが写真を渡して、デザイナーの彼女がそれを組み上げて、すばらしい動画をつくってくれた。彼女の成果です。

○中野委員

では、本当にすばらしいスキルをお持ちの方が協力者の中にいらっしゃったというこ

とですね。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

そうなんですよ。

○中野委員

ありがとうございます。もっといろんな方に見ていただくといいかな。本当に茅ヶ崎市の財産だなど思いましたので、いろいろな場面で上映できるといいなと思いました。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

ありがとうございます。

○山田委員長

では、続きまして、質問、コメントをお願いいたします。いかがでしょうか。では、柴田委員、どうぞ。

○柴田委員

ありがとうございました。

資料を見た限りだと、本当に水族館のブリーダーさんみたいという印象を受けました。今回やられた事業は、大人の方も子どもの方も、地域を知るとか、そういうことで生涯学習みたいところにもつながっていくと思うんです。なので、こういった活動を続けていただきたいと思うのと、茅ヶ崎の方にごみ問題とかの話題を投げたときに、ごみの分別以外にも、海のごみということが結構意見として挙がったので、今回のような、ごみの展示ではないですけども、そういったことをもう少しいろいろな方に知っていただくと、この活動を応援してくれる方も増えるのではないかなと思ったので、周知の方法をもう少しいろいろ、もし工夫できるのであれば、やってみてもいいかなと感じました。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

続いて、高橋委員、どうぞお願いします。

○高橋委員

発表どうもありがとうございました。コロナの影響で活動計画に大きな変更が出たと

というのは、どの団体もそうだと思うのですが、そうした中で、動画の作成とか、講演会とか、陸上版ですね。体験教室以外の新たなスタイルが構築できたというのは、不幸中の幸いというか、コロナ禍だからこういうのができたということで、活動の幅がさらに広がるのではないかなと思いました。

1点質問ですが、つくった動画の再生数は今どれくらいかというのはわかりましたか。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

ちょうどこれがあったので、今朝見たのですが、125回となっていました。だいぶ伸びました。

○高橋委員

ありがとうございます。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

柴田委員から意見をいただいたところもそうなのですが、この動画、今後、私たちの海のイベントの観察会の前に事前学習会というのを毎年やっているんですね。そこで、事前の注意ですとか、生物の解説、予備知識ということ子どもたちに伝えた上で海に行くという方式を毎年とっているんです。その中の事前学習のところでこの動画が有効活用できるのではないかなと私たちはたくらんでいて、今年度以降の開催には、動画とか、こういった資料をフル活用してやっていきたいと思っています。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。あとお一人大丈夫そうです。では、北川委員、お願いします。

○北川委員

発表ありがとうございました。ここまでえぼし岩を掘り下げた活動とか広報といいですか、そういった取り組みは他にないのではないかなと思ひまして、茅ヶ崎に、私もよく市外の方をいろいろお呼びする機会が多くて、えぼし岩を見せたときに、そんなに私は語れないんですよね。このパンフレットとかをえぼし岩が見える場所のお店に置くとか、そういった取り組みは今されているとか、今後計画されているかなど、教えていただけますでしょうか。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

今のところ、雄三通りのお店、プレんティーズさんと、Smileさんという雑貨屋

さんに置かせていただいています。あとは、右側に行くとサウザリーさんにも置いていただいているのですけれども、置くと一瞬でなくなる状態ですね。またこれからも検討して、海のほうのお店、商店のほうにも広げて、置いていただけるように活動を少しずつ広げている状態でございます。

○北川委員

たくさん、えぼし岩がバッチリ見えるお店がありますので、そのときが多分こういうものなんだよと伝えるチャンスだと思いますので、ぜひそういったところへの周知活動、協力者を募るといところでぜひ頑張っていたらと思いました。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

それでは、時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

えぼし岩海の自然体験教室実行委員会様、ありがとうございました。

それでは、続きまして、「探求的学習による思考力、読解力の強化・・・のびしろの自覚と育成・・・」について、茅ヶ崎開智舎様に報告していただきます。ご準備をお願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。お願いいたします。

○ちがさき開智舎

ちがさき開智舎の井上です。プレゼンさせていただきます。よろしく申し上げます。

ご案内のとおり、今、ご覧になっているのは、事業実績報告書そのものでございます。

昨年度は、従来のコースにプラス、英語の特修コースというのを設けました。なぜ英語を加えたかということですが、どうも学校の現状は、コロナの影響もあるのでしょうかけれども、なかなかうまくいっていないようでありまして、私どもの塾にいる5年、6年生、この現状も、ものすごく習熟度に差があるというような現状です。これは何とかしなければいけないという結論のもとに始めさせていただきました。幸い、近場に子どもたちに英語を有料で教えていられた先生がいらっしゃるしまして、その方に無償で活動していただくという了解をいただいて、こぎつけたというところでございます。

2番目の、読解力・思考力強靱化コース。これは、設立当初から改善を重ねつつやっておる基本コースでございます。私どもでは、英語と国語と算数、この3教科について学

習支援をしております。この中で、私どものプリントを勉強するだけでは、どうも理解力においていまいちの状況が従来あったという反省のもとに、では、これをしっかりと教えるためには、導くためにはどうしたらいいのだろうかということで、いろいろなアプローチを考えようということで、従来の一部イベントなんかではやっていたのですが、紙芝居を使って演じさせると、そういうこと。それから、もう一つは、約400冊ある「のびしろ文庫」を備えています。そういう中から読書の推進ということで、読后感想文を書いてくれた子どもについては、それを機関紙に載せているというような形で興味を引き出していくというような努力をしております。

なんと申しましても、国語と算数、これは基本中の基本でございます。特に国語につきましては、1, 200ばかりの漢字を覚える。これがなかなか苦であるような状況が私どもの塾生には見えます。字が書けないことは困るのですけれども、読み方も、書く場合の送り仮名、これもなかなかしっかり覚えていないというような状況であります。ですから、漢字がなぜ必要なのか。国語という教科がなぜ全部の教科に共通する基本なのか、そのあたりからの理解をさせたいということで、漢字の形についても可能な限り指導しているという状況であります。

今、私どもが一番、困っているわけではないのですが、注意しているのは、学校の勉強がコロナの影響で相当遅れております。私どもへ通ってきている子どもたちというのは、大方がいろいろな問題を抱えている子どもたちです。ですから、通常、2人の親がいて、いろいろの塾へ通っているという子どもたちではないんです。ですから、そういう面で子どもたちの背景を個々に把握しながら、なんと申しましても、小学校で学ぶことは小学校の課程の中で何とかクリアさせたいというようなことでやっております。

勉強の場所は、ちがさき開智舎ののびしろ教室。ここの建屋の3室を使っております。

下のほうにあるのですが、昨年の参加者は、延べ383名でした。通常、活動日は年間50日ですが、昨年場合はコロナで教室を休みにしたのが23日あったのですね。これにもだいぶ心を痛めたのですが、とにかく命のことを大事に考えていくということで、保護者の了解を得ながら、やむなく減らしたという結果がございます。

それから、授業日程ですが、3教科とも毎週火曜日で活動しております。後から加えた英語につきましては、毎月2回を原則に、やはり火曜日。開始が1時間遅れ。これは高学年ですから、1時間遅れで原則やっております。

授業の成果。これも英語からお話ししますと、何事もそうなのですが、語学の場合、どうしても習慣化ということが必要なもので、できる限り休まずに来るような形で行っております。

今後の展開です。これは、学校の現場もそうですが、いわゆる電子化といいますか、機器化がどんどん進んでおります。そういうものの理解もある程度やらなければいけないと考えております。

まとめとしましては、日本国だけが世界から一人活躍するということではできません。

国際社会に生きるという今後の子育てのことを考えますと、我々は、始めた以上、最大限の努力をしていくという形で頑張っております。

以上でございます。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、コメントがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。では、中川委員、お願いします。

○中川副委員長

報告ありがとうございました。

今後の展開のところで、ちがさき開智舎のフェイス・トゥ・フェイスの学習支援というのを特に重きを置くと書いていらっしゃるって、体験学習がとても重要だと考えていらっしゃるながら教室を運営していると思うのですが、コロナの中で特に気をつけていらっしゃるやり方というのは何かありますでしょうか。

○ちがさき開智舎

コロナ禍で事業を展開している私どもの注意ポイントですね。市がやりなさいと出している項目についてはやっております。例えば、来た者に検温するとか、手洗い、うがいをし、手指の消毒をします。それから、マスクは常時かけるということは、生徒もスタッフもやっております。

ただ、正直申し上げまして、今も毎週火曜日、活動をしています。登録時の8割、9割の生徒が来ています。正直、薄氷を踏むような思いでやっているんです。近場に学童保育ですとか、香川小学校が至近距離です。ですから、そういう組織の動きを参考にしながら、コロナに対する注意を深めるというような状況です。答えになりましたでしょうか。

○中川副委員長

薄氷を踏む思いということで、気持ちがよくあらわれていると思いますけれども。ありがとうございました。

○山田委員長

続きまして、いかがでしょうか。では、染谷委員、お願いします。

○染谷委員

ご説明ありがとうございました。

実際に今、子どもさんたちを教えているというのは、ボランティアさんになっているのかなと思うのですが、その方たちの考えが井上さんとある程度同じでなければいけないのかなと感じたのですが、その辺の、採用するに当たって、どのようなことで判断をされているのかということをお教えいただければと思うのですが。

○ちがさき開智舎

ありがとうございます。おっしゃるとおりです。スタッフが1つの目標に向かって進まないと、成果は出ません。そういう面で、お話しいただいたときに、私とよく話し合いをします。その中で、私が強調するのは、いわゆる学習の機会、あるいは、学習の制度、そういうものは国がつくる。けども、それを共有する側の国民、子どもたちですね。これはかなりの自助努力といいますか、そういうものがないと、なかなか教育できない。だから、今申し上げたいいろいろな問題を抱えている子どもたち、あるいは、家庭に対してそれを要求する、これは無理です。ですから、地域の活動団体、私どもをはじめ、いろいろな取り組みをしている団体ができる限りの応援をしているということを申し上げて、それに賛同していただいた方をお願いしているという現状です。

それから、毎年の事業計画、活動計画をつくるときに、スタッフ部門の先生方、この方たちの意見を反映した中でつくり上げているというような状況です。

○染谷委員

ありがとうございます。

○ちがさき開智舎

私どもの指導スタッフ、約半数が教職のOBです。あと半分は、社会福祉事業に従事している、例えば、社会福祉協議会の活動ですとか、民生委員ですとか、そういう経験者で構成されております。以上です。

○染谷委員

ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。

今、タイマーの音が聞こえましたので、質疑応答の時間はこれで終わりかと思っておりますので、委員からの質問は以上とさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

まるちがさき開智舎

ありがとうございました。

○事務局

ちがさき開智舎様、ありがとうございました。

以上で予定しておりました5事業の発表が終了いたしました。皆さまありがとうございました。

それでは、これより総括質疑に移ります。

総括質疑につきましては、市民活動のさらなる発展、市民活動げんき基金補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま及び団体、傍聴の方々から、日ごろの活動の中で感じられていることについて、忌憚のないご意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。

総括質疑の終了予定は15時15分を予定しております。進行につきましては、山田委員長をお願いしております。よろしくお願いいたします。

○山田委員長

承知しました。よろしくお願いいたします。

午後の部は、会場参加者の方が多くて、マイク、あるいはカメラの使い方が少し難しいかと思いますが、事務局の皆さま、何かアイデアがあったらお願いします。

○事務局

まず、会場については、発言はマイクを通して行っていただきます。今、会場の画面、多少ですが、全景が映るようにしておりますので、会場の方から挙手がありましたら、事務局のほうでもお声かけをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○山田委員長

S U E R T Eの方はご自身のオンラインでということなので、これはよく見えますので、それ以外の方のサポートをよろしくお願いいたします。

それでは、今から総括質疑ですけれども、総括という名称以前に、今、説明にありましたとおり、情報交換の機会も重要だという司会の方からのお話がありましたので、まずは、今回ご参加くださっている方々から相互に、報告を聞いて、あるいは自分の発表をした上で、それぞれの団体に向けて、あるいは全体に向けて、何か質問、感想、コメントなどありましたら、ご自由に発言いただければと思っております。

会場の方、オンラインの参加団体の方、どうぞ、まずは積極的にご発言いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。何か他の団体に聞いてみたいこととか、伝えたいこととか、このようなふうには仲よくやっていきたいと思いますというようなことがあれば、ぜひお

聞かせください。いかがでしょうか。

○事務局

会場から開智舎の井上さん。

○山田委員長

お願いいたします。

○ちがさき開智舎

開智舎の井上でございます。

私どもは、100%ボランティア活動です。ですから、子どもたちからお金は一切集めておりません。当然、手弁当です。こういう時期でございまして、スタッフがなかなか集まらないんです。可能な限り、役所を含めて、どこへでも出向いて、こういう状況にあるということをご理解いただくためへの努力はしておりますが、一方、個人情報管理規定ですか、何かありますね。役所の対応が非常に冷たいというのが現状です。

たしか事前の質問の中に、何か意見があったら言えというような項目があったと思います。そこに、頼むから、評価委員の皆さま、この方たちに、役所委嘱の評価委員という立場が確かにあります。だけど、評価委員さんがすべきことは何かということ考えたときに、我々の活動を認め育てるといふようなことがもう一つ大切なのではないかな。どちらにウエートを置くということになったら、我々の側に立っていただいて物を見、判断していただくということをしていただければ、我々も活動がしやすい。それから、逆に、いろいろな情報もいただけるのではないかと考えておりますので、ぜひともそのようなこともお考えいただきたいなということでございます。ありがとうございました。

○山田委員長

ありがとうございます。

ということで、今、1つ目は、ボランティアの意義ですね。つまり、スタッフをどのように効果的に募集し、活躍してもらおうかという方法についてのご質問。2点目が、それを支えるために、市民活動推進委員会のような組織が積極的に市民団体の側に立って発言をする、応援をする必要があるのではないかというご意見があった。その2通りの内容ではなかったかと思えます。

まず、1番目のスタッフ集めについての同じようなご苦労ですとか、あるいは、このようにふうにやってみて、案外うまくいったというようなご経験があれば、相互に紹介できればと思いますけれども、いかがでしょうか。スタッフ集めについて何かお考え、ご意見、ご質問などお持ちの方、いけば、他にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

この辺は確かなかなか難しい問題かもしれませんので、何とも説明が難しいと思います。午前中の総括質疑の中で、午前中は、スタート支援の皆さまだったのですけれども、もちろん、団体の規模とか活動年数は、新しい団体が多かったというところは、条件的には皆さまと違うのかもしれません。しかし、活動一回一回の記録、思いをきちんと残して、それを言葉で表明する、説明するという取り組みをなさった結果、賛同者が多く集まったり、協力してくれる方が多く集まったり、スタッフとして一緒にやってみたいと興味を示す方が得られましたという報告がありました。この辺は共通のヒントになるのではないかなと思います。とりわけ市民活動が、例えば、ミッションステートメントと言われるように、自分たちの思いを正確に言葉や文章で表明をするというところからスタートする。これが今回、げんき基金補助事業についても同じ仕組みをとっていきまして、それが申請書類であり、報告書類ではないかなと思います。

このような記録の積み重ねと、自分たちの喜びとか幸せをきちんと言葉にして伝えていくという繰り返しの活動が、結果的には多くの理解者、賛同者を得られていくというのは、午前中の話からはかなり共通性がありました。これはヒントになるのではないかなと、今、個人的には感じました。午前中の話を、そんなふうに楽しく聞かせていただきました。これは、他の委員の方も思っているのではないかなと思いますので、ヒントにしてくださいありがとうございます。

2点目に、委員会に今度はリクエストが向けられていましたけれども、こちらについて、何か委員の皆さまからリプライはありますでしょうか。どうですか。もっと積極的に応援する側に立ってくださいというリクエストだったのですけれども、こうしたコメントについて、委員の方からどうぞ反応をお返しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、北川委員、どうぞお願いします。

○北川委員

確認ですけれども、今の市民活動推進委員会から発するというのは、例えば、行政に対して言ってほしいということなのか、支援策としてより検討してもらったほうがいいのか、どちらになりますでしょうか。

○山田委員長

開智舎の方、その質問についてお答えいただいてもいいですか。

○ちがさき開智舎

私ども、誤解しないでいただきたいのですが、アンチ行政ですとか、アンチ国だとか、そういうような考え方は一切ございません。これは、まずはっきり申し上げておきます。私どもは、あくまでも学校の現状を考えた場合に、そこから落ちこぼれてしまう子ども、

これが学校の規模や、あるいは設置環境によって、5～10%の落ちこぼれ及び予備群がいるというのが、ある意味公然の秘密になっているようでございます。

ですから、そういう中で、ちがさき開智舎も、今、5年目を迎えておりますが、地域から迎え入れられて、そして、今の生徒が17名。それを15名のスタッフで指導しているというような状況でございます。

何を皆さま方に支援していただきたいかということですが、我々が、いわゆる市民活動団体が動きやすい環境づくり、これをぜひとも力を合わせてつくっていききたいと考えております。ですから、我々が一番困るのは、スタッフが集まらないということが最大なんです。ヒト・モノ・カネの中で一番困るのが、ボランティア事業の場合は人材です。そういう面で、なかなか難しいお願いかも知れませんが、我々がスタッフを集めやすいような社会環境をご検討していただければ、この後、事業を興す者たちは随分助かるのではないかなと考えております。以上です。

○北川委員

ありがとうございます。

今お話しいただきましたように、実際、市民活動の支援というところでは、市民活動のサポートセンターがさまざまな手法を行っているという状況がある一方で、私たち市民活動推進委員会といたしますと、今回のように、皆さまがげんき基金補助制度にご応募されて、さまざまな時代、社会的な背景、茅ヶ崎が抱えている背景のもとでこういう事業をしていこうとされているものを、一つ一つお聞かせいただいている中で、今、茅ヶ崎市というのはこういう課題を抱えていて、市民活動を実際に進められている皆さまがこのような課題を抱えているんだなというのは、日々、勉強させていただいております。そんな中で、市民活動推進委員会でも、どういう支援体制をとるべきかというのは、協議をさせていただいているところでありますので、それが伝わるというか、少しでも実を結べるようにしていく努力は、私も一委員としてしっかりさせていただきたいと思っております。私から言えるのはこれくらいですけれども。

○山田委員長

ありがとうございます。

ただ、今のお二方の話し合いを通じて感じるのは、仕組み全体のサポートと同時に、個々の団体に向けた、それになうような支援もぜひ検討してほしいということも含まれていました。それを解決する方法の一つは、継続的にこうして横のつながりの場を持っていくというのが一つの方法でもあるでしょう。これは午前中にも総括質疑の議論があったのですけれども、団体間がつながっていくと、そうした悩みの共有とともに、解決案の相互の提案や、逆にサポートし合うことによって解決が見出されるということも多分にあるというお話でした。そんなような場をつくっていくということも含めて、委員会の中で

は、今の開智舎の皆さまからのお話を承っておこうと思います。ご質問と北川委員のリプライ、ありがとうございました。

どうぞ。

○ちがさき開智舎

ありがとうございます。

今おっしゃった、いわゆる地域の先進団体との交流による知恵の貸し借り、あるいはノウハウの伝達、そういうことは、地域協議会というものをつくりまして呼びかけまして、それで活動しております。これには、香川小学校の校長、教頭をはじめ、自治会の役員、学童保育の幹部、あるいは幼稚園の園長というような形、子どもにかかわる活動をいろいろな側面からアプローチしている団体の横の連携には努めて、これも香川へ来て3年くらいですかね、というふうな状況で頑張っております。以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。

それでは、時間も限られておりますので、話題として他の内容でも結構ですので、今回のげんき基金補助事業の活動を通じたよかったことですか、このようなこと、大変だったな、厳しかったなというような振り返りなど、感想も含めまして、どうぞ団体の皆さまからご発言いただければと思います。ぜひよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

○ミナスタ

本日はありがとうございました。

委員さんにお聞きしたいのですけれども、委員さんには現場に直接見に来られることとかはできないのでしょうか。

○山田委員長

現場の確認ですか、一緒に参加をするということですね。これは、委員会全体として参加をするということは、今のところできないのですけれども、委員の中で時間が許す限り、情報が全部伝わってまいりますので、少し顔を出しましたとか、のぞきに行きましたということは、それぞれやっているところです。

今回も全体の活動について拝見することはできなかったのですけれども、例えば、幾つかの活動を委員がのぞかせていただくことは、午前中も含めて実際にありました。あくまでも、これは可能な範囲でのことですが、見学させていただく場合がないわけではありません。ただ、残念ながら、全て見せていただくということはできません。これは、おわびとともに反省をすることでございます。

○ミナスタ

とんでもないです。お忙しいことと思うのですけれども、例えば、僕は、すごい口下手で、聞いて、さっきもお話ししていただいた、仲間を集めるに当たって思いを言葉に、形に、そして伝えて、仲間を増やすという形もごもつともなことだと思っています。ただ、現場でやっている、現場の雰囲気を生で味わっていただくのが思いを形に伝える手段なのかなと。はっきり言って僕たちの武器なのかなと思いますので、委員さんでも、団体の皆さまでも、もしお時間がありましたら、少しのぞいていただけると、大変ありがたいです。

○山田委員長

承知しました。百聞は一見にしかずというところをきちんと理解をしていくことも、これも市民活動の重要な考え方ではないかというご意見だったと思いますので、承知いたしました。ご発言ありがとうございます。

○ミナスタ

お忙しい中をありがとうございます。

○山田委員長

他にはいかがですか。どうでしょう。もしよろしければ、発表順に何か一言ずつ。どうぞお願いいたします。

○サンチャイ・ネパール ねばるば

のぞきに行きたいと思いました。ありがとうございます。

この事業はステップアップですけれども、実は私自身は、今回、参加させていただくのは初めてだったのですね。とにかくげんき基金補助事業とか、ナントカ基金とか、そういう場合には、必ず、これについてやります、これについてのお金を出してくださいということをお願いして、それだけはやらなくてはいけないというのが、どれでも多分そうだとは思うのですけれども、実際やってみるとわかってくることというのがすごくあって、もしも可能ならですけれども、少し、このくらいまでについてなのかわからないですけれども、後からでも、同じこと、これをやろうとしているのだけれども、これに必要なことを忘れていましたというものに対して大丈夫になるような余裕みたいなのがあると、先に考えているだけでは想像がいかないところのものを、実際にげんき基金補助事業として生かしていただけるみたいなのがあるのではないかなというのを感じました。それは、実際問題、補助金とかそういうことに関しては難しいことなんだよ、それは無理なんだよという話なのかもしれないですが、そういうのを感じました。ありがとうございます

います。

○山田委員長

ありがとうございます。

これについては、事務局で何か検討の可能性とかがありますでしょうか。

○事務局

予算立ての中で言いますと、予備費。例えば、全体の事業費に対して何パーセントまで予備費を設けるといふ考え方はあるかとは思いますが、正直、補助金とか、補助事業の中で予備費ということは、今、事務局では考え方として取り入れた例は把握をしていません。今後、検討させていただいて、今後の募集要項なりの検討材料にさせていただければと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。

S U E R T E の皆さまとえぼし岩の皆さまは、何かご感想でも、印象でも、もし何かあればと思ったのですが、いかがですか。お願いします。

○特定非営利活動法人 S U E R T E

以前、げんき基金補助事業以外でもこういう活動を周知徹底したり、総合型として活動させていただくに当たって、いろいろな課に相談に行ったのですが、こういうよい活動や委員の方たちにも協力していただき、結構、これはこの課に行ってくれとか、これはこの課に行ってくれとたらい回しにされてしまったりうやむやになってしまったりということもありました。げんき基金補助事業でこのような活動をさせていただいて、発展させていただきたいと思っております。例えば、子どもたちのこういうことをやりたいとか、片親の方でなかなか活動に参加できないという方は、うちはマイクロバスもありますので、曜日によって、回る場所を変えながらも、参加がなかなかできない方たち、お子さまたちをお手伝いしたいというのを、どの課に行って、誰に相談していいのか。横のつながりも含めて、高齢者の方たちも今、コロナ禍ですので、広く集めることができませんので、集団ごとにとか、そういうアドバイスとか。募集のお手伝いというのではないのですが、集めてくれというのではなく、この課に行ったほうがいいのか、こういうふうにしたほうがいいのかというアドバイスをしていただければ、今後、皆さまの活動も続いていくと思うんですよ。

あと、活動場所の確保。これも優先的に取ってくれというのではなく、こういう場所があるよとか、そういう情報の共有とか、そういうアドバイスの的なもののご提案等をしていただければ、げんき基金補助事業が終わった後も続いていくのではないかなと考えてい

るのですけれども。

○山田委員長

ありがとうございます。

そのあたり、つまり、ワンストップでさまざまなサポートが得られるというところが、多分、今の論点だと思いますので、これは引き続き、委員会としても議論しつつ、事務局にはこれはメッセージとして今伝わっていますので、いろいろと検討していただけるように、今後してまいりたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

○特定非営利活動法人SUERTE

ぜひこれからも、せっかく寄附とか、いろいろなお金で活動させていただきましたので、これが継続して市民の皆さまに、スポーツ基本法等もありますので、いい方向に進んでいけたらなと思っております。

○山田委員長

ありがとうございます。貴重なご意見どうもありがとうございます。

○特定非営利活動法人SUERTE

よろしくをお願いします。

○山田委員長

時間が過ぎているのですが、えぼし岩の方、もしよければ、一言でもお願いいたします。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

このたびはお時間をいただき、ありがとうございます。

私、茅ヶ崎市で保育士をしております。この事業を何で知ったかという、小学校と中学校の恩師がこの事業を立ち上げの段階からやっていました。その話から、中学校の恩師、小学校の恩師とも連絡をずっととってしまして、この団体を今度おまえたちが引き継いでくれないかというお話をもらってやってきました。何よりも地域との交流や、茅ヶ崎の人たちとのかかわりを大事に大事に守ってきたから、この事業ができたし、このたび、こうやってお金をいただいて、このような素敵なパンフレットをつくっていただいて、私たちとしては感謝しかなくて、本当に感謝しかなくて、楽しいところに人が集まるし、横のつながり、地域のつながり、とにかくいろいろな人と、いろいろな学者さんとかも意見交換していただいたり、生命の星の方も協力していただいて、クモの巣状にどんどん話が広がって行って、この事業が成功したものだと思っていますので、SNSとかも使いなが

ら、何と言ったらいんだらうね、まとまらないけれども、高砂コミュニティセンターさんとも結局は茅ヶ崎の商店の店主さん、食べ物も飲食の方のお母さまがボランティアでされていて、そこでつながってという話で、いろいろな方がボランティアしてくださって、とにかく横のつながり、とにかくコミュニケーションがとりづらいですけども、とって、どんどん発信ができれば、自分たちでも楽しくできますね。自分たちが楽しむことが一番。人に発信して、楽しいから、興味があるから、では、この団体、少しのぞいてみようとか、フェイスブックのぞいてみようとか、講演会に行ってみようといっただけでつながって、結構人も来てくださって、悪天候なのに。なので、とにかく私たちは感謝しかないです。本当にありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございました。

いろいろと最後、まとめにつながるようなことを発言していただきまして、助かりました。ありがとうございます。

○えぼし岩海の自然体験教室実行委員会

僕もえぼし岩のこの団体に入った最初のきっかけというのが、僕はもともとこの辺りの海で生き物観察会、海の観察会を子どもとかを対象にしているという活動をずっとやっています、その様子を見てくれた、茅ヶ崎の方が、よかったら、茅ヶ崎のえぼしでこういうことをやっているんだけど、入らないかみたいなことでお誘いいただいてからのご縁でこういうことをさせてもらって。ただ自分らが楽しんで、それを発信して、共感をもって、皆さまが助けてくれるというのは本当に大事なことだなというのを改めて思いました。先ほどのコメントともども、本当に感謝しかないので、また引き続きよろしく願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。

一通り皆さまのご発言を伺いまして、それぞれ活動を通じてさまざまな財産、蓄積、ストックができあがっていることがとてもよくわかりました。もちろんその中には、反省すべきところもあるかもしれませんが、これをますます有効活用して発展をしていくという決意も含まれていたように思います。その実際がよくわかりまして、私たちとしても、そのように活動して下さったということについては、本当にお礼を申し上げたいと思います。

同時に、このストックは、今、私たちに宿題も含めて投げられたということもあわせて今ご指摘がありました。委員会としてもよくこの内容をさらに次の展開につなげてくださいますとメッセージとして承りましたし、同時に、運営する市と事務局の皆さまにも聞いて

いただいた中で、今後の展開に向けて、皆さまとともに、さらによいものにしていくというところが確認できました。この辺のご指摘についても、大変助かるご指摘ですので、お礼を申し上げたいと思います。

当初の予定から、もうこれで8分以上経過してしまいましたので、総括質疑というか、ディスカッションは以上とさせていただきます。この司会のバトンを事務局にお返ししたいと思います。皆さま、ご協力ありがとうございました。

○事務局

皆さま、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会を閉会いたします。

会場出口におきまして、げんき基金の募金箱を設置しております。お帰りの際にご協力いただくと幸いです。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

最後に、委員の皆さまにご連絡ですけれども、本日ご記入いただきました評価票につきましては、大変お手数ですけれども、本日中に事務局のほうまでメール等でご提出をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さま、本当に今日はありがとうございました。